

男と女の織り成す大江戸絵双六



築地双六館館長
吉田 修

いあいさつ

絵双六は時代を映す鑑です。上がりにはその時代の夢や憧れが表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。日本最初の絵双六は十三世紀後半頃、天台宗の新米の僧に仏法の名目を学ばせるために考案されたといわれています。

江戸時代には、当時世界一の多色刷木版技術である浮世絵技法で、歌舞伎・道中・出世・武者等様々な双六が発行されました。明治以降は印刷技術の向上、雑誌付録の誕生、流通販売ルートの確立により裾野が広がって、家庭の娯楽品として愛されました。現在においても、多くの双六を見出すことができます。

二〇二二年から二〇二四年にかけて、女性活躍応援誌「季刊オビニオン・プラス」に、「男と女の織り成す大江戸絵双六」シリーズとして江戸時代の双六の紹介と解説記事連載させていただきました。この度、この連載を本冊子として発行することになりました。併せて、特別付録として「防災双六」いくつかより、今がその時 地震の備え、〜大正（関東）大震災双六に学ぶ防災の教訓〜を同封しました。これは、大正十二年九月二日に起こった大正（関東）大地震の惨状を描いた絵双六を復刻し、現代の「災害チェックリスト」を付加したものです。防災用のピンナップとしても使えるものです。

また、二〇二四年には、立命館大学アトリサーチセンターと提携し、私が運営する築地双六館で蒐集した江戸時代から昭和三十年代前半までの双六、約五百種、六百五十枚の画像データベースとその解説が一般公開されました。詳細は本書の後段をお読みください。

なお、本書の発行にあたっては、編集長の渡邊嘉子様、編集担当の青木由佳様、丸山顕応様、写真家の渡邊英昭様、立命館大学の赤間亮先生、当館の土肥正和様には、大変お世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

それでは、一緒に絵双六の世界に遊んでみましょう。さすれば、あなたは、すっかりスゴロキアン（双六大好き人間）になっていることでしょう。

ご感想をメールなどいただければ望外の喜びであります。

令和七年 睦月 吉日

築地双六館 館長 吉田修

男と女の織り成す大江戸絵双六

目次

本誌掲載双六の発行年と幕末年表……………2

双六 ① 鳥盡初音寿語六……………4

双六 ② 春興は利ませ寿古路く……………6

双六 ③ 奥勤楽寿こ六……………8

双六 ④ 甲冑着用備双六……………10

双六 ⑤ 案内吉原双六……………12

双六 ⑥ 楼門豪傑雙六……………14

双六 ⑦ 画合源氏双雙六……………16

双六 ⑧ 新撰銘酒寿語録……………18

双六 ⑨ 春霞弾初雙六……………20

双六 ⑩ 三題漸新作雙六……………22

双六 ⑪ 婦人一代出世雙六……………24

双六 ⑫ 新板出世雙六(加賀藩)……………26

双六 ⑬ 諸藝盡し出世壽語録……………28

双六 ⑭ 官位双六……………30

双六 ⑮ 遊嬉肌初湯双六……………32

双六 ⑯ 新板歌澤壽雙六……………34

双六 ⑰ 福福雙祿……………36

双六 ⑱ 新板一口調葉唄雙六……………38

双六 ⑲ 新板喜尽寿古六……………40

双六 ⑳ 月盡面白壽語録……………42

双六 ㉑ 伊勢物語業平壽娛六……………44

双六 ㉒ 東海道五十三次発句双六……………46

双六 ㉓ 高雄紅葉十三代双六……………48

双六 ㉔ 北口登山富士詣道中雙六……………50

双六 ㉕ 義経一代勲功双六……………52

双六 ㉖ 新板仮名手本忠臣蔵双六……………54

双六 ㉗ 新版奥州本場養蚕手引壽語録……………56

双六 ㉘ 大日本六十餘州一覽双六……………58

知の森で遊ぼう!……………60

— 双六データベースを調べる・読み込む・楽しむ —

世界的学術データベースに収蔵された「双六コレクション」が一般公開!

赤間亮(立命館大学教授) 対談 吉田修(築地双六館館長)

著者プロフィール……………68

本誌掲載双六の発行年と幕末年表

	年代	本誌掲載双六の発行年	社会の出来事
弘化		文化11年～天保年間(1814年～1845年)頃 案内吉原双六	
	弘化元年(1844)	伊勢物語業平壽娯六 	フランス軍艦アルクメーヌ号、那覇に入港し通商を求める 佐賀藩主・鍋島直正、長崎でオランダ軍艦内部を見学
	弘化2年(1845)	◀伊勢物語業平壽娯六① ▼伊勢物語業平壽娯六② 	アメリカ船マンハッタン号、漂流民を乗せ浦賀に入港 松浦武四郎、東蝦夷地を探検
	弘化3年(1846)		アメリカ・東インド艦隊司令長官ビッドル、 浦賀に入港し通商を求める
	弘化4年(1847)	弘化4年～嘉永5年(1847～1852年)頃 奥勤楽寿ご六、 婦人一代出世雙六	徳川慶喜、一橋家を継承
嘉永	嘉永元年(1848)		佐久間象山、西洋式大砲を鑄造
	嘉永2年(1849)		葛飾北斎没。江川英龍、葦山に反射炉を構築 松浦武四郎、国後・択捉を探検
	嘉永3年(1850)	◀奥勤楽寿ご六袋絵① 	高野長英、江戸青山で包囲され自刃。佐賀藩、反射炉を構築
	嘉永4年(1851)	▼奥勤楽寿ご六② 	土佐藩漂流民・中浜万次郎(ジョン万次郎)、 アメリカ船で琉球に上陸 佐久間象山、江戸に砲術塾を開く
	嘉永5年(1852)		オランダ商館長クルチウス、来年アメリカ艦隊が 日本に来ることを通告 薩摩藩主・島津斉彬、反射炉を構築
	嘉永6年(1853)	◀奥勤楽寿ご六③ ▼奥勤楽寿ご六④ 	アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー、軍艦4隻を率いて浦賀に来航 国書受取を要求 幕府、水戸藩主・徳川齊昭を海防参与に登用 ロシア使節ブチャーチン、軍艦4隻を率いて長崎に入港。 国書受取要求
安政	安政元年(1854)		ペリー、軍艦7隻を率いて江戸湾に進出 日米和親条約(神奈川条約)を締結、下田と箱館が開港 日米和親条約附録(下田条約)締結、英、露とも締結
	安政2年(1855)		海軍伝習所を長崎に設置。安政の大地震
	安政3年(1856)	諸藝盡し出世壽語録 義経一代勲功双六	アメリカ総領事ハリス、下田に着任 長州藩、吉田松陰に松下村塾の再興を許可
	安政4年(1857)	福福雙祿 	日米下田協約を締結、長崎が開港 将軍・徳川家定、諸侯に外国との通商を開始させる
	安政5年(1858)	甲冑着用備双六	井伊直弼、大老となる 日米修好通商条約を締結。神奈川・長崎・新潟・兵庫が開港
	安政6年(1859)	新板一口調葉唄雙六 月盡面白壽語祿	イギリス総領事・オールコック、江戸の東禅寺を領事館とする 安政の大獄：梅田雲浜、断罪 以降、頼三樹三郎、橋本左内、吉田松陰など刑死

	年代	本誌掲載双六の発行年	社会の出来事
	万延元年 (1860)		勝海舟・福沢諭吉・ジョン万次郎など咸臨丸でアメリカへ出航 桜田門外の変:大老井伊直弼、桜田門外で暗殺される
文久	文久元年 (1861)	文久年間の頃 春興は利まぜ寿古路く 高雄紅葉十三代双六 新撰銘酒寿語禄	武市半平太ら、土佐勤皇党を結成 和宮、江戸到着 水戸浪士ら、東禅寺のイギリス公使館を襲撃
	文久2年 (1862)	 ◀高雄紅葉十三代双六	徳川慶喜、将軍後見職となる 生麦事件:島津久光の家臣、武蔵国生麦でイギリス人を斬る 高杉晋作ら、イギリス公使館を放火
	文久3年 (1863)	新板出世雙六	薩英戦争:イギリス軍艦、鹿児島に砲撃し薩摩藩、応戦 八月十八日の政変:三条実美ら急進派公卿が追放され長州藩に都落ち(七卿落ち)。近藤勇ら新選組の隊名を得る 坂本龍馬が神戸海軍操練所の塾頭になる
元治	元治元年 (1864)	 ◀楼門豪傑雙六 袋絵	池田屋事件:新選組、池田屋で会合中の宮部鼎蔵、吉田稔麿らを急襲 禁門の変:長州藩、御所を攻撃し敗れる。第一次長州征伐 四国艦隊下関砲撃事件 (英米蘭仏の四国艦隊、長州藩の下関砲台を占拠)
	慶応元年 (1865)	元治から慶応に改元した年(1865年) 楼門豪傑雙六	第二次長州征伐。坂本龍馬、下関で桂小五郎と会合 イギリス公使にパークス着任
慶応	慶応2年 (1866)		イギリス公使パークス、薩摩藩を訪問 孝明天皇、長州征伐休戦の勅命を下す
	慶応3年 (1867年)	新版奥州本場養蚕手引壽語禄 大日本六十餘州一覽双六	パリで万国博覧会開催。幕府・佐賀藩・薩摩藩が出展 東海・近畿でええじゃないかが流行 明治天皇、大政奉還の勅許 王政復古の号令 近江屋事件:坂本龍馬・中岡慎太郎暗殺
	慶応4年 (1868)	 ◀大日本六十餘州一覽双六	鳥羽・伏見の戦い:京都市街で旧幕府軍と新政府軍が激突 旧幕府軍が敗退 明治天皇、五箇条の御誓文を発する 江戸城、無血開城 江戸を東京と改称
	明治元年 (1868)	明治初頃 東海道五十三次発句双六	五稜郭陥落。榎本武揚ら降伏。版籍奉還実施 東京横浜間に電信開設
江戸時代後期 (発行年不詳)	鳥盡初音寿語、画合源氏双雙六、 官位双六、春霞弾初雙六、 三題漸新作作雙六、 遊嬉肌初湯双六、新板歌澤壽雙、 新板喜尽寿古六、 北口登山富士詣道中雙六、 新板仮名手本忠臣蔵双六	 ◀遊嬉肌初湯双六  ▼北口登山 富士詣道中 雙六	

男と女の織り成す大江戸絵双六 シリーズ第一回「新春を寿ぐ」①

知的なことば遊びで、 様々なシーンを描いた大人の双六

築地双六館館長 吉田 修

■絵双六入門① 双六盤と絵双六の違い
現存する最古の双六は、正倉院の御物として所蔵されている「木画紫壇双六局」です。養老律令には、喪に服している期間中に行つてはならない雑戯として挙げられています。

「日本書紀」には、持統天皇時代に「禁断双六」と記述されており、賭博性のあつた双六の禁止令が発せられていたことがわかります。双六は再三にわたつて禁止されながらも、よほど広まっていたのでしよう。この頃の双六は、バックギャモンと似たようなルールの盤上遊戯でした。

江戸時代には盤双六と絵双六が共にすごろくと呼ばれていたため、混乱が生じましたが、現在では、双六と言えば絵双六を指します。江戸時代の双六盤は嫁入り道具の一つでした。その名残が雛飾りのお道具としての双六盤なのです。

■絵双六入門② 絵双六は時代を映す鑑
絵双六はその時代の価値観を映す鑑です。上りにはその時代の夢や憧れが表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。日本最初の絵双六は13世紀後半頃、天台宗の新米の僧に仏法の名目を遊びながら学ばせるための

ものでした。江戸時代には、多色刷木版技術である浮世絵技法で、歌舞伎・道中・名所・武者等様々な双六が発行されました。

明治以降は、印刷技術の向上、雑誌付録の誕生、流通販売ルートの確立により、双六の広報宣伝メディアとしての機能が強化され、娯楽だけではなく、国威発揚や教育啓発ツールとしても活用されました。

大人のユーモアを感じさせる江戸の双六

初音とは、鳥や虫の、その年、その季節の最初の鳴き声のことです。雄の鶯が雌を求めてホーホケキョと鳴くように、江戸の男も女にアピールしていました。新年を迎え、色々な「とり」が賑やかになさえずっているのがこの双六です。鑑賞ポイントは四つあります。一、「とり」という言葉の駄洒落仕立ての双六です。嫁とり、塵とり、客とり等々。滑稽でくすつと笑わせます。二、浮世絵技法の一文字ばかりが使われています。

版木のほかした部分に水を含ませ、その上に絵具をおいて、にじんだところを紙に摺りとると自然なグラデーションを描くことができます。上りのコマの着い空の色に使われています。三、江戸庶民の言葉が活写されています。男言葉は、おいら、おめえさん、ございやす、使いやしやう。女言葉は、ちよいとお母さん、嫌だわ、おまいさん、おいでなさいよ等です。四、江戸の暮らしや生業が描かれています。本所業平橋近くでとれる蛸は隅田川名物であつたこと。また、現代では存在しない職業名や言葉があります。矢とりは盛り場や神社の境内にある楊弓場の遊び女のこと、さいとりは建築現場の左官のこと、引きとりは遊女の身請けのことです。江戸文化の知的な発見ができる双六なのです。ちなみに、この双六には21種類の職業（仕事）が登場しています。



煤とり	嫁とり	上がり 御世とり			婿とり
吹きとり					手とり
鼠とり	ぼつとり	さいとり	判とり	さとり	点とり
酌とり	草履とり		客とり	矢とり	口とり
蛸とり	請とり	手間とり	ひとり	炭とり	掛けとり
	金とり	引きとり		塵とり	日雇とり
					振り出し

▲袋絵:当時の双六は袋に入れて売られていました。この袋絵は歌川豊国の描いたものです。梅に鶯(うぐいす)と美男美女の華やかな取り合わせが目を引きます。

▲双六の構成図(色とりどりなのです)

鳥盡初音壽語六

撰者 鶴亭秀賀
画工 春蝶樓國綱



▼双六の概要 鳥盡初音寿語六 撰者:鶴亭秀賀、画工:煤蝶楼国綱、版元:錦橋堂山田屋次郎、
サイズ:縦75cm×横71cm。とりに因んだ28個のコマが繊細秀麗に描かれています。
読み下し文: <http://www.sugoroku.net/tori/index.html>

■上りは御代とり:振出しに登場する日本橋の若侍が、上りでは花魁と大宴会。文字通りの御代(天下)をとった気分が伝わってきます。背景の書き込みも「頭(かしら)には、初日の明けをいただき、鶴も羽(は)を伸(の)す、春は来(き)にけり」とおめでたいのです。



右上■婿とり:コマの背景にはこのように書かれています。「チョイとお母さん、起きてよ、わたくしはお婿さんの来るのが誠に嫌だわ。」と。江戸は各藩の武士や職人・商人が集中する男社会だったので、売り手市場の女性は結構強気だったかもしれません。

金屏風に、正月の 寿ぎを描いた気品ある双六

二代目 広重の筆による
高雅な双六の世界

張交絵とは、江戸時代から明治時代に描かれた浮世絵の様式のひとつで、一枚の絵の中にいくつかの図柄を描いたものをいいます。これは、二代目広重の手による有名な作品で、色々なアイデアに溢れています。

お正月の座敷に広げられた張り交ぜ金屏風がそのまま双六となっています。文函の中には、年始の客からのいたadaki物があり、文机に開かれた帳面の文字を読むとそれが振り出しになっています。サイコロの出た目に進む「飛び廻り双六」です。

張り交ぜた扇面は、初夢、若水、とそ、梅、門松、追羽根、福引、福寿草、猿回し、万歳など正

月の行事や縁起物が描かれ、俳句が添えてあります。例えば、「福引や子らも尋ねてむく恵方」。昔の福引は紙のこよりの端に当たる品物の名が書いてあり、子供がそれを引いて、その年の恵方を向いて、いいものが当たりますようにと、こよりの端を広げたこのことです。上りは初日に舞う丹頂鶴。その扇面には「人はみなうちとけ顔や初日の出」とあります。

新春の寿ぎにふさわしい華やかでおめでたい上りのコマです。二代目広重の気品と遊び心の窺える作品といえましょう。

●吉田 修(よしただおさむ)プロフィール
1954年生まれ。島根県松江市出身。公益社団法人全国求人情報協会常務理事、和文化教育学会会員を務めるかたわら築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。 <http://www.suborokunet/>

＜江戸の諸職あれこれ＞

江戸時代にあった職業の現状	職業の種類	全体におけるシェア(%)	職業別シェア(%)
A 現在もほとんどそのまま存在する 例：くすり屋、目録売り、質屋、半屋、八百屋、畳屋、古手屋(古着屋)、古本屋、居酒屋、大工、床屋、硝子屋、医者、針屋、取壊師、製結床、仕立屋、早稲屋(葬儀屋)、飛脚屋、狂言師、相撲取り、草鞋の縫製、手習いの師匠、学者	161	33.0	販売 44.7 職人 22.4 サービス 13.0 医療 9.3 芸人 5.6 先生・講師 5.0
B 業態は変わったが今も存在する(行商→ショップ販売など) 例：氷売り、鞍馬売り、鉛売り、塩売り、靴売り、物売り、指物屋、十九文見世(何でも十九文で売る店)、とっけいべえ(古銭と鉛を交換する商人)、読売り、口入れ屋、口中医者(虫薬を見せながら虫歯薬や歯磨きを売ったり、虫歯を抜いたりする人)	215	44.0	販売 93.5 職人 3.3 サービス 1.9 医療 0.5 先生・講師 0.5 芸人 0.5
C 現在は存在しないか、消滅しかかっている 例：鳥の糞買い、ぬか買い、柴売、番売、香焼売、雪売、灰屋、蛇造い、しゃはん売、餅屋、曲屋(三味線などに合わせて屋をひりわたる人)、餅屋、目直し、餅の振入れ、下駄の産入れ、さござい(子供たちにくじの紐を引かせて鉛や双六をあげる人)、菓餅屋	112	23.0	販売 55.4 職人 19.6 サービス 15.2 芸人 8.9 医療 0.9 先生・講師 0.0
合計	488	100.0	

江戸時代の職業の平成における残存状況調査

「江戸の生業(なりわい)事典」は、土農工商のうちの工商の職業カタログであり、488種類の職業が網羅されています。「A 現在も存在する職業」は161種類で33.0%、「B業態は変わったが今も存在する職業」は215種類で44.0%であり、この二つを合わせた江戸・平成「職業残存率=(A+B)」は77.0%とかなり高いことがわかります。「C現在は存在しないか、消滅しかかっている職業」は112種類で23%です。

資料出所:2005年に「江戸の生業事典」(著者:渡辺信一郎 発行:東京堂出版)を元に筆者とリクルートワークス研究所で集計・作表した。



男と女の織り成す大江戸絵双六 シリーズ第二回①

大奥の厳しい身分社会で、働く女性たちの楽しみを紹介。

築地双六館館長 吉田 修

奥女中の厳しい身分社会と 給与システム

江戸後期、誰も知らない大奥のキャリアウーマンの暮らしぶりを庶民に知らしめた双六です。江戸城の大奥には、最盛期で1000人とも3000人ともいわれる奥女中があり、厳しい身分社会（※図1）があり、給与もメリハリがついていました（※図2）。寛政年間（1789～1801年）の物価を現代換算にすると、御切米と御合力金と御扶持の合計年俸は、上臈御年寄で2658万円、御中臈で685万円、表使で552万円、御末で85万円でした。

大奥キャリアウーマンの 秘かな楽しみ

大部屋住まいの奥女中にはプライベートの時間もなく、ストレス

が多かったことでしょう。この双六には、奥女中の楽しみが描かれています。上品なマスとちよつと下品なマスを織り混ぜているのが面白いところです。

しりふり踊りから 大宴会まで

最も下世話なものは、右下の隅にあるしりふり踊りです。こ

んな言葉が添えられています。「わか竹さん しりふりおどりはわたしが一ばんじやうずだよそらとんとつ てれつて・」。楽しみ方のマスには、茶坊主、双六、鳥さし（鳥もちで鳥を捕ること）、福びき、歌かるたなどがあります。

奥女中の楽しみといえは芝居見物でした。しかし、はめをはずすと「三日遠慮」という軽い謹慎処分があります。それも

お楽しみの一つだったのかもれません。そして、上りは狂言師を招いての花見の大宴会。奥勤めの身では、江戸市中で花見をすることはご法度だったがゆえに、夢や憧れの晴れのマスになったのです。

歌舞音曲は 必須科目

大奥に入るには旗本や御家人の娘であることが求められました。しかし、商家の娘でも諸芸・行儀見習いなどを身につけて形式上武家の養女になって大奥入りするケースも多くありました。歌舞音

曲は、武家奉公に出る娘たちの必須教養で、この双六の下から四段目にもお踊、長唄、清元、富本、義太夫、常磐津、琴唄、下座のマスが並んでいます。大奥の御次役

は、行事などの余興で、歌舞や音曲を披露し宴を盛り上げます。特に、江戸を上げての二月の初午祭では、大奥でも奥女中たちが踊りや茶番狂言を演じ、御台所が御簾越しに鑑賞したと伝えられています。下から二段目には双六のマスがあります。このような台詞が書かれています。「ヲヤこのすご六は おくづとめたのしみすご六といひますから わたしも一ツとりよせていもうとのところへとし玉にやりませう」。おやおや、この双六の宣伝文句だったのですね。



◀ 碁盤に腰掛けた娘が女人形を遣うというユニークな袋絵の構図である。絵師である一松斎芳宗は師匠国芳の破門になること十数度という破天荒な人物であつたらしい。

江戸末期、武士の双六は 甲冑装着マニュアル!!



甲冑のつけ方マニュアル

甲冑とは鎧と兜からなる武士の伝統的な武具のことです。なぜこの双六が発行されたのでしょうか？ それは、武士が甲冑の着け方を忘れてしまったからです。この双六が世に出た安政5年は日米修好通商条約が締結され、函館・神奈川・長崎・新潟・兵庫が開港される一方、安政の大獄の中、攘夷の嵐が吹き荒れていました。戦の危機が迫りつつも、甲冑は家の奥で埃をかぶっていたわけです。そこで、絵解きのマニュアル双六の登場です。

禰から鉄砲・槍まで 43マスで丁寧に説明

武士が禰を付け、小袴を履き、胴丸を着け、両刀を帯び、鉄砲や槍を持ち、戦場で活躍するまでのストーリーの中で装着マニュアルが機能を発揮します。振出しは陣太鼓、陣鐘、法螺貝の鳴り物。重要な情報伝達ツールでした。脛当てのマスを見てください。「むすびめはしつかりとしめようはゆるくするがいいかぬいかなぬ」。実践的な説明書きでナルホド!と納得です。上りは「勝戦帰陣」で、褒美を下

戦国時代は 槍が主力装備

賜される荣誉あるシーンが描かれています。武士が実際に甲冑を着けて戦っていた戦国時代の主要な武器は槍でした。武田軍団の武具装備率(図3)を見ると、58%が長柄(5m程度の長槍)だったことがわかっています。長柄の穂は15cm程度で、柄のしなりを生かして穂先を打ち付ける打撃武器でした。果たして、幕末の武士は長柄を使いこなせたのでしょうか？ 槍術実践双六も必要だったのかもしれませんが。

弓と鉄砲 実戦ではどちらが強い？

弓にも鉄砲(火縄銃)にも射程距離(図4)があります。殺傷有効、最大いずれの射程距離も鉄砲が弓を上回っています。しかも、銃弾が持つ運動エネルギーは人力で放たれる矢の二十倍です。しかし、「鉄砲の勝ち!」というのは、ちと早いのです。三浦正幸広島大学名誉教授(城郭建築史・2015年の松江城の国宝昇格に貢献)によれば、「鉄砲の最大の欠点は一発撃つと次の発射まで三分かかること。それに対して、弓はつがえて放てばいいので五秒に一矢放てる。三分あれば三十矢くらい放てる。鉄砲が一人殺傷する間に、弓は三十人を殺傷できることになる。つまり弓は鉄砲の三十倍の破壊力がある」ということだそうです。

ボックス・トクガワナーの二百六十年は、弓も火縄銃も時代遅れの武器にしてしまいました。近世に二百年以上も平和であったという国は、世界を見渡しても日本の他に存在しません。この双六はその証しなのです。



芝神明前一壽齋
丸屋甚八

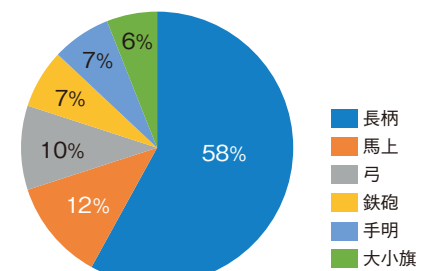
■ 図4 弓と鉄砲の射程距離比較

(単位:m)

射程の種類/武器		弓	鉄砲 (火縄銃)
殺傷 射程	鎧を着た相手でも 高確率で殺傷できる距離	30	50
有効 射程	命中すれば殺傷できる確率が 高い距離	80	200
最大 射程	当たっても致命傷に達するか どうか怪しい、届くだけの距離	400	500

※猪爪ケイ氏の「戦国時代考察サイト〜戦国紫電将〜」のデータを筆者が表組みにした。

■ 図3 戦国時代武田軍団の武具装備率



出所:「図解武器と甲冑」
 (著者:樋口隆晴・渡辺信吾 発行:ワン、パブリッシング)

●吉田 修よしたおさむプロフィール
 1954年生まれ。島根県松江市出身。公益社団法人全国求人情報協会常務理事、和文化教育学会会員を務める。たわら築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。 公式HP: <http://www.sugorokunet/>

男と女の織り成す大江戸絵双六 シリーズ第三回①

千本の桜並木が描かれた 吉原遊郭の観光案内双六

築地双六館館長 吉田 修

吉原の明暗を詠んだ俳句

18世紀に人口百万人を越えた江戸は巨大な消費市場で、魚市場は朝千両、芝居小屋は昼千両、吉原遊廓は夜千両ともいわれました。闇の夜は①吉原ばかり②月夜哉(宝井其角)

この句は、①で切って読めば「不夜城」吉原の明るさを詠んだものになり、②で切って読めば、吉原は暗黒の夜だと意味が逆になります。句切れがスイッチのような働きをして、吉原全体が闇に沈んだり、逆に月に照らされたりします。「しんだいしやたのむ」と同様な言葉の妙を醸し出しています。

■ 葛重「吉原細見」のビジュアル化双六

細見とは案内書のことです。吉

原の妓楼名、遊女名、揚げ代などを細かに記した遊里の案内書を吉

原細見と呼びました。貞享年間の頃から発行され、大変人気がありました。ここに目を付けた葛屋重三郎は、天明2年(1782)に、版元の株を掌握し、独占販売体制を作り上げました。写真は文化7年(1810)午の年に発行された吉原細見シリーズの一つです。このような案内情報をマップ付きイラストにしたのがこの絵双六です。文政末もしくは天保初めの刊行と思われる。

■ 旧暦3月に出現する人工の桜並木

新吉原は、東京ドーム二つ分ほどの広さの長方形の土地で、周囲は黒板塀で取り囲まれ、外にはお歯黒どぶと呼ぶ掘割りが作られて

いました。大門と呼ばれる出入口に入ると、仲ノ町という245mのメインストリートがあります。旧暦の3月1日(現在の3月末ごろ)になると、この仲ノ町の通りの中央に、植木職人が植えた千本の桜並木が突如出現しました。江戸っ子だけでなく、地方からの観光客や参勤交代の武士などが大勢見物に訪れたといわれています。

■ 娼妓解放のきっかけ
マリア・ルス号事件

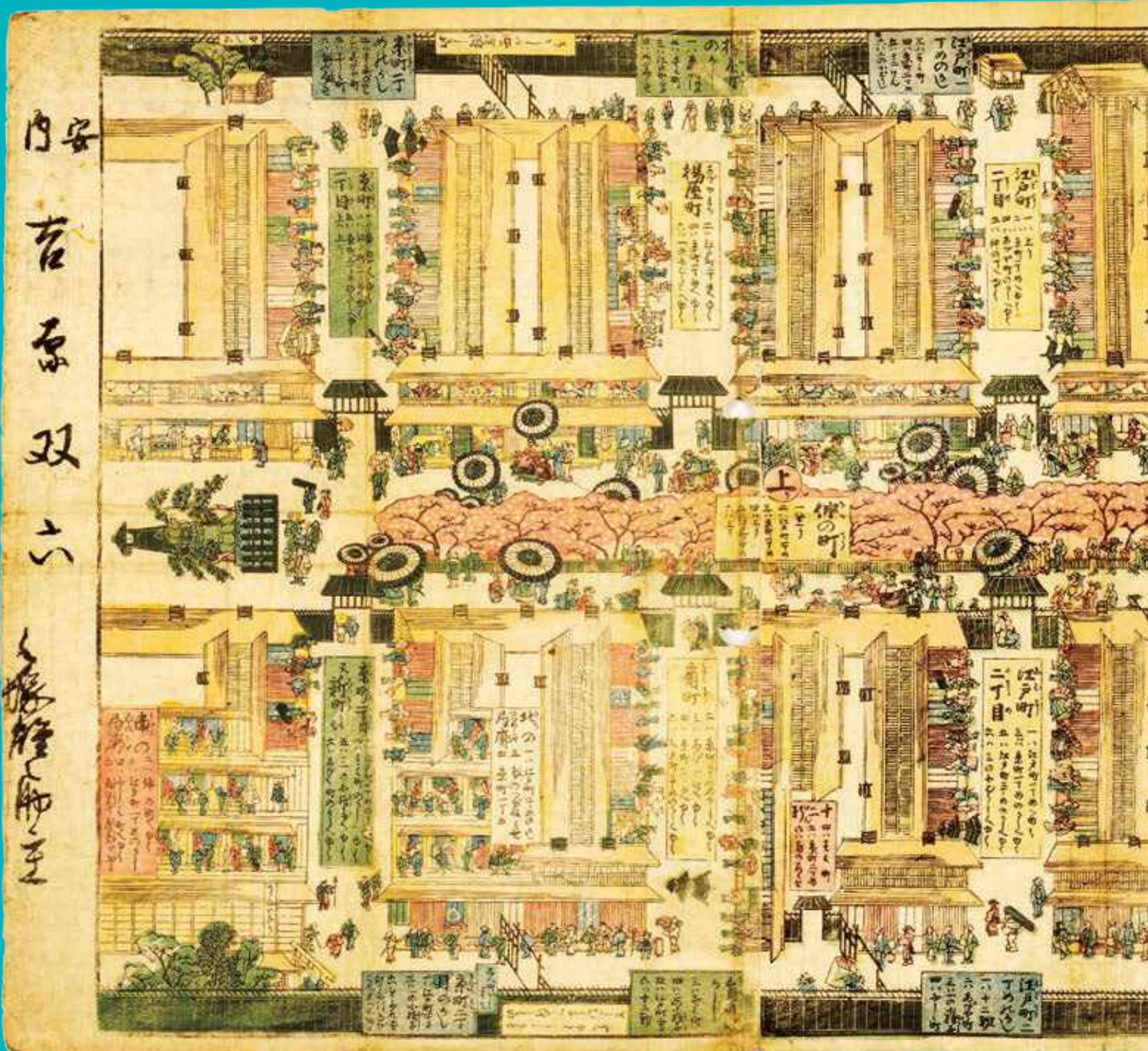
マリア・ルス号事件とは、明治5年(1872)に日本の横浜港に停泊中のマリア・ルス号(ペルー船籍)内の清国(中国)人苦力を奴隷であるとして日本政府が解放した事件のことです。日本が国際裁判の当事者となった初めての事例であり、外務卿・副島種臣と神奈川県権令・大江卓が貫いた人道主義が認められて勝訴となりました。詳細は省略しま

すが、この裁判の争点の一つは、マリア・ルス号側の弁護士が「奴隷契約は無効だ」というが、日本ではもともと酷い奴隷契約が実際に効に認められているではないかと、遊女の契約の実情を指摘したことです(『日本婦人問題資料集成』第一巻、牧英正「人身売買」)。当時の実態はその通りですが、日本の裁判では「一国が適法としても別の一国が禁ずる時はその契約は無効とするのが万国法であり、遊女に関しては国内限りの制度であって、その制度が存在する我が国でも奴隷の輸出入は厳禁している」として、「契約は無効」という判決を下して終結、清国人たちは翌年9月無事本国に引き渡されました。この事件に素早く対応した明治政府は明治5年に娼妓解放の太政官布告を发出了しました。その後ペルーが抗議を行ったものの、ロシア皇帝の仲裁裁判により明治8年5月「日本政府は責任なし」として決着しました。とはいえ、法と実態の乖離は容易には解消されず、昭和33年の売春防止法の施行によって一応のピリオドが打たれることとなります。



▼双六の概要 案内吉原双六 文化11年～天保年間(1814年～1845年頃)

撰:志満山人 画:一陽齋(歌川)國信 板:地本問屋・森屋治兵衛 サイズ(cm):縦42.3×横53.5



昭和時代	明治・大正時代						江戸時代		時代	出来事	
	吉原(新吉原)						元吉原				
昭和33年(1958)	昭和20年(1945)	昭和7年(1932)	大正7年(1918)	明治33年(1900)	明治8年(1875)	明治5年(1872)	明治4年(1871)	宝暦14年 明和元年(1764)	明暦3年(1657)	元吉原 元和4年(1618)	慶長8年(1603)
売春防止法施行 吉原営業終了	終戦	「農村疲弊と子女売買問題」(松宮也、橋本成之著)出版	25回帝国議会で廃娼問題が初めて取り上げられる	大審院判決「娼妓廃業届出書」調印請求の件」救世軍が娼妓運動開始	明六雜誌第42号で津田真道が娼妓論を主張	太政官布告「人身売買禁止令」司法省達「娼妓解放令」	マリア・ルス号事件「娼妓解放令の契機となる国際裁判」	太夫の称号がなくなる	幕府が移転を命じ、新吉原で営業開始	許可を得て、元吉原で営業開始	徳川家康が江戸幕府を開く

※「吉原事典」(永井義男の「吉原(新吉原)の三百年」の年表、国立国会図書館・第84回常設展示資料「娼妓運動の歴史」(公娼制度と救世軍の娼妓運動考)(石原歩・著)から筆者が抜粋して作成した。

■表① 吉原と娼妓運動の歴史

▼▶ 薦屋重三郎の吉原細見(文化7年版)縦17.2cm×横12cmのハンディサイズの案内書。所定の欄毎に屋号と屋号紋と芸妓が記されている。男芸者の部、女芸者の部の頁もある。



南禅寺山門を舞台に展開される 歌舞伎の華麗な魅力が満開!

オールスター名場面 歌舞伎双六

異形・豪壮・絢爛。大学や博物館のコレクションにもある有名な歌舞伎双六です。評判が良かったため、細部が修正されて重版されています。双六の舞台は京都南禅寺の山門。6演目の役者27名が楼上で見得を切るオールスターキャストです。屋根上には白浪五人女の素ばしりお熊や木ねずみお吉が取り手と大立ち回りを演じ、二階では白浪五人男の日本駄右衛門や妖術を使う義賊児雷也がはじけています。白浪とは泥棒のことです。何といっても、主役を張っているのは楼門五三桐の大盗賊石川五右衛門。「絶景かな、絶景かな。春の宵は値千両とは、小せえ、小せえ・・・」の名科白が聞こえてきそうです。一階には鞘当に登場する不破伴作や名古屋山三らもいます。階上の石川五右衛門に、天地の見得で睨みを返す一階の真柴久吉が、物語性と構図の立体感を醸し出しています。これは江戸庶民憧れのオールスター名場面歌舞伎双六なのです。



上がりのお神輿と白浪女

豪華なお神輿が上がりです。右の女は「おさらばお伝」。貧農出身の強請り集りの悪女です。おお怖っ！ 周りにいる三人の女の名前が読める方は変体仮名通です。

歌舞伎は江戸庶民の 娯楽の花形

歌舞伎は庶民の一番の楽しみでした。江戸三座といわれた中村座、市村座、森田座の売り上げが一日に千両といわれています。大都市だけではなく、文政8年(1825)の「諸国芝居繁栄数望」によれば、全国で140の芝居が列挙されており、村芝居も含めれば1500棟の芝居小屋があったといわれています。現在でも上演されている演目は300本以上あり、登場人物は2300余

■袋絵に描かれた裏方
豪華な山門をせり上げるための木組みの舞台装置。奈落(床下)で動く人達にもスポットを当てるといふ国周の心配りか。
■役者絵が得意な国周
絵師の国周は羽子板の顔絵で腕を上げ、役者絵を得意としていた。辞世の句は「よの中の人のおかおもあきたればまむまや鬼の生きうつせむ」。生涯を通じて多くの顔絵を描いた。

人にもなります。作者は工夫を凝らし、日本や中国の古典を題材に、奇想天外のストーリー展開を進めていきます。児雷也豪傑譚話 は、版元や作者が何度も交代し、二次創作、三次創作のクリエイティブから生まれたものです。余談ですが、京都南禅寺山門前にある豆腐料理で有名な「順正」の書院には、この双六が飾られています。あるべき場所にあるべき絵双六があるという風景が料理を一層引き立てていました。

表② 主な登場人物のプロフィール

主な登場人物 (様における位置)	歌舞伎の役どころ	歌舞伎演目
おさらばお伝 (二階屋根右)	盗賊白浪五人女の一人。捕り手に囲まれたお六を介錯し、自らも縄にかかると決意する。	処女評判善悪鏡
すばしりお熊 (二階屋根中)	盗賊白浪五人女の一人。美人局、強請を働く。	処女評判善悪鏡
木鼠お吉 (二階屋根左)	盗賊白浪五人女の一人。お熊と争って切られる。	処女評判善悪鏡
石川五右衛門 (二階右)	豊臣政権に反発した天下の大泥棒。最後は捕えられて七条河原で釜茹での刑に。	楼門五三桐
田毎姫 (二階中)	更科家の息女。月形美雪の助の美人妻。大蛇丸に横恋慕される。	児雷也豪傑譚話
日本駄右衛門 (二階左)	盗賊白浪五人男の首領。盗みはしても人殺しはしないのが信条。	弁天娘女男白浪
児雷也 (二階屋根右)	蝦蟇の妖術で諸国を荒らしまわる盗賊。その正体は肥前尾形家の遺児周馬弘行。	児雷也豪傑譚話
夢の蝶吉 (二階屋根中)	越後信濃の境にある黒姫山の麓国分寺の山門で児雷也と争う。	児雷也豪傑譚話
奴鳥羽(平流) (二階右)	飯櫃の中に桜姫と許嫁の清はるを隠して助ける。淀平とする双六もある。	清水清玄六道巡
お里つ (二階中)	石川五右衛門の妻。五右衛門の助命を願う女伊達。	楼門五三桐
不破伴作 (二階中)	豊臣秀次の美少年の小姓がモデル。遊里で傾城葛城をめぐって不破伴作(万作)と名古屋山三が争う。	鞘当
真柴久吉 (二階中)	大階秀吉がモデル。五右衛門が階上から手裏剣を打つと久吉は柄杓で受け止める。	楼門五三桐
(小)山三 (二階左)	出雲の阿国とともに歌舞伎の始祖になぞらえられる美男の伊達男。加賀藩名越家の出の名越山三郎がモデル。遊女の葛城を争って父を殺された山三は親の敵として伴作を討つ。	鞘当

※歌舞伎登場人物事典(白水社)、歌舞伎の101演目解剖図鑑(株)エスクナレッジ、歌舞伎キャラクター事典(新書館)、歌舞伎キャラクター絵図メイソ出版)から筆者が抜粋して作成した。

▼双六の概要 さんもんごうけつすごろく 山門豪傑雙録 元治から慶応に改元した年(1865年)

筆:一鶯斎(豊原)國周、板:伊勢屋兼吉、サイズ(cm):縦108.2×横90.3

登場人物の名前の横に、さいころの目に応じた移動先が書かれており、振ったさいころの目によって指定されたコマに飛びながら上りを目指す。



●吉田 修(よしだおさむ)プロフィール
1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、
和文化教育学会、特定非営利活動法人写楽の会の会
員を務める。かたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・
研究・制作に取り組む。
公式サイト: <http://www.sugoroku.net/>

男と女の織り成す大江戸絵双六 シリーズ第四回①

女子の教養のひとつとなっていた 源氏物語の江戸版絵解き双六

築地双六館館長 吉田 修

源氏物語の絵解き双六

一千余年前に紫式部(表①)が著した源氏物語は、現代においては世界33の言語に翻訳される日本を代表する長編の王朝物語です。54帖より成り、500名近くの人物が登場し、約100万字にも及ぶものです。源氏物語は平安時代以来、写本によって読み継がれてきましたが、江戸時代初期には版木による出版によって、大坂や江戸の大手の子女にまで習得すべき教養として広まりました。しかし、文章がとて難解です。森鷗外でさえ「読みやすい文章ではない。訳本がほしい」と著書の中で述べています。ゆえに、江戸時代の庶民が54帖を絵解きで楽しめるようにこの双六が制作されました。

双六の持つ「ドラマ展開の一覧性」機能が遺憾なく発揮されています。

源氏物語を読みこなすには

筆者は原典への挑戦を諦め、恥ずかしながら今回初めて、「円地文字訳」を読みました。そして、源氏物語の読みこなすには以下の4点に対する素養と理解力が必須であることがわかりました。それ

は①古今和歌集などの古典や漢籍、②当時の摂関政治や宮廷事情、③末法思想と浄土信仰、④もののあはれの情調、です。ストーリーはわかっても平安時代の女房の気持ちにはなり切れませぬ。

趣向溢れる双六絵巻

双六の構成を見てみましょう。サイコロを振り、マスにある指示に従って駒を動かす飛び回り双六です。振出しは寝殿造りの部屋の一隅で、筆を片手に何やら構想を練る紫式部のようです。面白いのは、香道の源氏香で使う縦横の線52の組合せを54帖に反映したマスの右上に表示していること。各マスに光源氏が愛した女性や登場する男性が配されています。マスの顔が物語の人物描写を反映しているか？は微妙です。末摘花の垂れ気味の赤鼻、瘦せて不器量な空蝉は似ていません。皆美人に描かれているのは絵師の配慮でしょうか？

上りは光源氏が愛しい姫君や女房に囲まれて正月の酒宴を張る場面です。光源氏が二条の院に引き取った若紫を皆が見詰めている中で、目線をやらない複雑な面持ち

なのは正妻の葵の上か？これは筆者の想像です。

双六が登場する26帖「常夏」

源氏物語に双六が登場すること(ご存じでしょうか？)とはいえず、平安時代には絵双六はまだ存在せず、常夏に登場する近江の君が夢中になったのは双六盤(写真①)です。ルールは現代のバックギャモンと同様で、賭博性が高く何度も禁止令が出されました。勝負事には人間の本性が露わになります。それを歴代の名訳者がどのようにに描写したのでしょうか？不遜にも26帖の「常夏」における近江の君の双六遊びの訳文比較(表②)を表に作成してみました。訳者の個性が如実に現れています。私は与謝野晶子の「いい目が出ませんように」という表現にとてもリアリティを感じます。

紫式部も清少納言も双六遊びをしたといわれています。平安から令和へと連綿と続くスゴロキアン(双六大好き人間)の系譜に感じ入ります。



▲写真① 江戸時代の双六盤(当館所蔵)。コマは双六開始時の陣形。

時代	年齢(推定)	出来事
天禄元年(970)	1	紫式部誕生?(諸説あり)
寛和2年(986)	17	一条天皇即位
正暦4年(993)	24	清少納言 中宮定子に仕える
長徳2年(996)	27	父為時の赴任地越前国に下向
長徳4年(998)	29	帰京し、藤原宣孝と結婚
長保元年(999)	30	長女 賢子(大式三位) 出産
長保2年(1000)	31	中宮定子が皇后に、女御彰子が中宮に(史上初の帝二后)
長保3年(1001)	32	夫と死別、源氏物語の執筆開始 清少納言の枕草子ほぼ完成
寛弘2年末(1003)	36	宮仕え開始、藤原彰子に仕える
寛弘3年始(1006)	37	5月頃に宮仕えを放棄し里に帰る
寛弘5年(1008)	39	源氏物語が評判になる
寛弘7年(1010)	41	紫式部日記執筆開始 源氏物語が完成?
長和2年(1013)	44	この頃に宮仕えを辞める
長和5年(1016)	47	藤原道長摂政に
寛仁3年(1019)	50	死去?(諸説あり)

※拓麻呂氏「紫式部年表」に作者が加筆して作成した。

■表① 紫式部関連年表

▼双六の概要 えあわせげんじすごろく 画合源氏双六 江戸時代後期

作者:初代歌川国貞(二代目豊国、別称一陽斎) ※「應需」とは版元の持込み企画であることを示しており、万が一にも浮世絵師に幕府取締りが及ばないように注意を払っている。浮世絵師が画工として分業システムの中に組み込まれていることも示している。 版元:東都てりふり町・錦昇堂及びすや庄七 サイズ(cm):縦74×横71



▲袋絵
袋絵の表紙は筆と巻紙を持つ十二単の紫式部。紫式部はおしゃれにとっても関心があったようで、源氏物語や紫式部日記には十二単の衣装の色や柄、かさねの色目など、何度も細かく描写している。

紫式部の原文	訳文	
訳者	訳文	備考
与謝野晶子 (1878~1942)	そのついでに、大臣は近江の君のいる所へも行った。座敷の中の御簾を高く巻いて、五節という若い女と近江の君は双六をしていた。両手を擦り合わせて、「いい目が出ませんように、いい目が出ませんように」と早口に相手のことをいっている。	序文を上田敏と森鷗外が書いている。二人とも現代口語訳は与謝野晶子が一番相応しいとしている。
谷崎潤一郎 (1886~1965)	やがて、女御のおんもとを退り出られたお帰りがけに、立ち止まってお覗きになりますと、簾を外の方へ無作法に高く張り出して、五節の君というしゃれた若い女房がいるのをお相手に、双六を打っていらつしゃいます。手をひどく忙しく揉みながら、「小賽々々」と言う声が、えらい早口なのです。	福永武彦は「潤一郎訳は谷崎氏の小説を読んでいるのではないかと錯覚するほど決定的な名訳だ。」と評している。
Arthur David Waley (1889~1966) The Tale of Genji 上	Clearly visible within were the figures of the Lady herself and of a lively young person called Gosechi, one of last year's Winter Dancers. The two were playing Doubles Sixes(※), and the Lady of Omi, perpetually clasping and unclasping her hands in her excitement, was crying out "Low, low! Oh, how I hope it will be low!" at the top of her voice, which rose at every moment to a shriller scream. ※Sugoroku, a kind of backgamon.	訳者は英国の東洋文学研究者。源氏物語の英訳 "The Tale of Genji" には定評あり。
円地文子 (1905~1986)	内大臣は女御をお訪ねになったついでに、近江の君のお部屋の外に立ちどまり、覗いて見られると、簾を高く張り出すように端近くに座って、五節の君という世馴れた若女房を相手に双六(※)で遊んでいる。近江の君は両手をしきりにこすり合わせながら、「小賽々々」とお呪(まじない)を言う声がひどく早口である。※双六、筒に入った二つの賽をふり出して、盤の上の白黒十二の石を進めて勝負する遊戯。	口語訳に5年半以上を費やし、その間、眼病を患い、網膜剥離の手術も受けた。戦後女性文学の先駆者。

■表② 26帖「常夏」における「近江の君の双六遊び」の訳文比較

江戸で人気の酒を一覧にした 正月向けの酒樽積み上げ双六

酒造りは基幹産業

江戸時代の酒造業は現代の自動車産業のように裾野の広い基幹産業でした。酒米・麴米作り、酒造、桶作り、倉庫業、廻船業（菱垣廻船）、酒問屋、飲食業等の雇用を支え、地域の産業振興に貢献しました。文政年間には灘の三郷から江戸への出荷（いわゆる下り酒）が66万5000樽（4斗樽・正味3斗6升入り）に達しています。吉野杉で作られた酒樽によって江戸に着く頃には芳醇な香りの酒に仕上がっており、江戸庶民からおおいに好まれたといえます。

問屋による酒の販売促進双六

双六の上部にある松竹梅の飾りを見ると正月向けの双六であることがわかります。この双六は江戸で人気のあった酒を一覧にして、庶民の購買意欲を喚起しています。双六の左右にある提灯には「地廻り酒問屋」「下り酒問屋」と記されています。これらの問屋が、版元の広岡屋幸助に依頼した販売促進双六ではないでしょうか。振出しは橋の擬

宝珠と纏の商標を持つ酒樽です。灘や江戸近郊のブランド酒樽を経て、上りに至ります。上りのし紙には、版元から酒百駄を御子供中様に贈るマスになっているのがユニークです。

日本酒の歴史

酒は人類の歴史とともにあります。3世紀末の中国の史書『魏志倭人伝』に「人性酒を嗜む」「歌舞飲酒す」と書かれているのが日本人と酒に関わる最初の記述です。これ以降の日本酒の歴史は表③の年表を参照ください。

日本酒の歴史は規制と税制の歴史でもあります。酒税こそが国を支えてきたとする国税庁のホームページに、酒と税制の歴史が詳説されています。日本酒の内出荷量は、昭和48年の170万klをピークに減少傾向で推移しており、令和2年には42万kl程度まで減少しました。

一方、令和2年における日本酒の輸出先国は61ヶ国で、このうち、アメリカ、中国、韓国、台湾、香港の5ヶ国・地域で数量及び金額の約8割を占めています。酒造の技術革新と職人の拘りにより

日本酒は格段に旨くなっています。今こそ、令和銘酒双六を制作したいくらいです。

百年以上老舗企業数 酒造業は第2位

日本には事業歴の長い酒造企業が多く存在し、毎年千社以上の企業が創業百周年を迎えていることはご存じでしょうか？ 競争・災害・経済危機などを乗り越えてきた老舗企業には学べることが多くあります。帝国データバンクの「老舗企業」の実態調査（2019年）を踏まえて、「百年以上の老舗企業数・上位10業種」と「百年以上の老舗の出現率・上位10都道府県」を作成しました（表①②）。清酒製造業の寿命の長さが際立っています。老舗企業のうち上場企業は532社。1602年に創業した薬用酒メーカーの養命酒製造（株）もあります。帝国データバンクの調査では、老舗企業は特にBCP（※）策定率が高いことが判明しており、危機意識が高いことも老舗企業の特徴の一つとなっています。百年以上続く酒樽が多く見られるこの双六を看に、さあ、一献傾けましょう！

■ 表① 百年以上の老舗企業数 上位10業種

順位	業種(細分類)	社数(社)
1	貸事務所	894
2	清酒製造	801
3	旅館・ホテル	618
4	酒小売	611
5	呉服・服地小売	568
6	婦人・子供服小売	535
7	木造建築工事	492
8	一般土木建築工事	479
9	酒類卸	475
10	土木工事	434

■ 表② 百年以上の老舗の出現率 上位10都道府県

順位	都道府県	出現率(%)
1	京都	4.73
2	山形	4.68
3	新潟	4.29
4	島根	4.03
5	福井	4.00
6	滋賀	3.98
7	長野	3.72
8	富山	3.50
9	秋田	3.28
10	石川	3.21

出所：帝国データバンク「老舗企業」の実態調査(2019年)のデータより筆者が抜粋して作表した。

※BCPとは事業継続計画(Business Continuity Plan)。企業の災害、システム障害、不祥事等の危機的状況下に置かれて、重要業務が継続できる危機管理の方策を用意し、事業継続を可能にする戦略計画書。

●吉田 修(よしだおさむ)プロフィール
1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文化教育学会、特定非営利活動法人写楽の会の会員を務める。たわら、築地双六館館長として双六の蒐集、研究・制作に取り組む。

公式HP: <http://www.sugoroku.net/>

▼双六の概要 新撰銘酒寿語禄 文久元年(1861)

画:梅素亭玄魚 版元:広岡屋幸助 サイズ(cm):縦71×横75



表③ 日本酒の歴史年表(簡略版)

時代	出来事
A D	「魏志」東夷伝(「倭国の酒」の記述)
250頃	「播磨国風土記」に「清酒」の記述 清酒の初見
400頃	「淨御原律令」に「酒造司」に「酒部」を組み入れる
持統3年 689	讃岐国美貴郡の官人の妻、酒に水を割り販売(「日本書紀」)
宝龜年間 768	寺院で酒造りが行われていたとの記事(「金剛寺文書」)
天福1年 1233	洛中洛外の酒屋342軒を数える
応永32年 1425	兵庫、西宮の旨酒、加賀の宮腰酒、堺酒など京都市場へ進出
文明年間 1469	豊臣秀吉、洛南・醍醐で花見の宴を催し諸国の名酒を献上させる(「甫庵太閤記」)
慶長3年 1598	泉州堺の商人、大阪より木綿・油・酢・醤油などと共に酒を積込み江戸に回送(菱垣廻船の始まり)
元和5年 1619	江戸幕府は初めての酒税を設定、免許者に限り酒造を許す
明暦3年 1657	幕府の調査で、全国の醸戸数2万751戸、酒造米高90万3037石、醸造石数高91万8000石となる
元禄11年 1698	伊丹の剣菱、將軍御膳酒に指定される
元文5年 1738	灘三郷の江戸入津量、江戸中期以降、最高66万5000樽、22万3000石に
1822	清酒(日本酒)・濁酒醸造鑑札収与と収税方法規則を公布
明治4年 1871	博覧会へ出品のため、日本酒初めて海外へ輸出
明治5年 1872	びん詰め日本酒初めて売り出される
明治11年 1878	酒造税法、営業法など公布、免許税を廃し営業税とし、日本酒の免許限石数を設ける
明治20年 1896	酒類は十種類に分類され、日本酒の級別は特一・二級となる
昭和37年 1962	酒造組合中央会「表示に関する自主規制基準」を設定
昭和50年 1975	級別廃止
平成4年 1992	2019年度の日本酒輸出総額は約23.4億円で、10年連続で過去最高を更新
令和元年 2019	

※日本酒造組合中央会の「WJ」日本酒歴史年表より筆者が抜粋加筆して発表した。
*魏志倭人伝は中国の歴史書「三国志」中の「魏書」第30巻烏丸鮮卑東夷伝倭人条の略称。

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第五回①

多様なエンターテインメントが展開されていた江戸時代

築地双六館館長 吉田 修

江戸時代には多様な
音曲の流派があった

明治生まれの私の伯母は、浄瑠璃本を読み、かつ謡いながら、名場面になると決まって涙を流していました。かくも、江戸時代から伝わる音曲には日本人の心を揺り動かすチカラがあり、江戸時代には多くの音曲の流派が全国に存在していました(表①)。2019年度の12〜69歳男女の直近半年間の音楽商品購入額を見てみましょう(表②)。コンサート・ライブ・演奏会などのリアルなイベントは全体の25%に過ぎず大半は電子デバイス等により配信されたものです。

落語の『寝床』にみる
泣き笑い

一方、江戸時代は人を介した音曲伝達が全てと言っていいで

しよう。師匠から弟子への音曲伝達は正統派ですが、簡単ではあり

ません。落語の名作『寝床』(寝床浄瑠璃)では、音曲の習い事を笑い飛ばしています。こんな内容です。義太夫好きの大家が自分の芸を人に聞かせたがり、番頭に長屋の者を呼びにいさせるが、それぞれ言い訳をしてだれもこない。店の者も仮病を使って逃げてしまふ。大家は怒り、長屋の者はみんな出ていけ、店の者は暇を出すという。一同が驚いて集まり、大家が機嫌を直して語り始める。そのうちに静かになったので、大家がよく見ると、みんな寝ている。(落ちは秘します)。

現代は、
音痴が少なくなった?

音楽電子機器によって、楽譜に

基づいて標準化されて提供される現代の音曲は、音痴の割合を少なからしめたのではないでしょう

か?という調査があります(図①)。「音痴ではない」17・6%と「ほとんど音痴ではない」36・5%の合計54・1%が自分自身を「音痴ではない」と回答しています。カラオケや音楽電子機器の普及により、多くの人の音感が向上し、歌が上手くなったと感じます。江戸時代においては、基準となる音曲が存在しないため、音痴という概念すらなかったのかも

音曲と芝居の
エンターテインメント

振出しは天秤棒姿のいなせな

魚売りと思われ
ます。賽の目によつて一清元、二歌沢、二鶴沢、三大薩摩、四鶴賀、五竹本、六野沢のマスに飛んでいきます。多種多様な江戸音曲のマス



(表①)を経て、春色豊かな京に戯れる男女の姿で上りです。句が添えられています。こきませで都の春や花苔も。これは、古今和歌集で詠まれている「見たせせば柳桜をこきませで都ぞ春の錦なりける」に由来します。代表的な謡の演目が書かれているマスもあります。長唄唄方の名跡である岡安喜三郎の『勧進帳』や豊竹(浄瑠璃義太夫節)の『朝顔日記』や大薩摩の『矢の根』などのマスです。江戸絵双六には音曲と芝居が庶民の文化に浸透していた様子がかがわれます。なんと、素敵なエンターテインメントの世界でしょう! 江戸時代の音曲の資料とくずし字の解説(※3)によって、作者である文亭梅彦の編集意図を少なからず理解することができます。江戸の双六文化は奥深きものであります。

◀画:朝霞楼(落合)芳幾 彫工:小泉兼(兼五郎)。小泉巳之吉の弟子で江戸末期から明治初期にかけての浮世絵版画の彫師。三味線を抱える芸者と客に扮している役者のようだ。

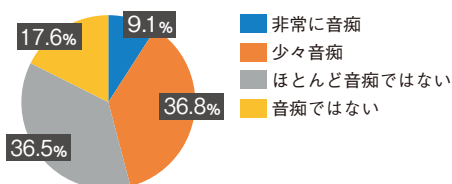


■表② 2019年度音楽の支出額(9393億円)のベスト5

順位	内容	シェア(%)
1	コンサート、ライブ等の入場料	25.0
2	音楽関係のグッズ、出版物	17.7
3	CD購入	14.0
4	音楽ビデオ(DVD等)購入	11.9
5	カラオケ	7.2

※以下、Amazon Prime Music、定額制音楽配信、ダウンロード型音楽配など。
※12~69才男女の直近半年間の音楽商品購入額。一般社団法人日本レコード協会「2020年度音楽メディアユーザー実態調査報告書」のデータから筆者が作表した。コロナ禍の影響は殆ど受けていないと思われる。

■図① 自分自身を音痴だと思いませんか？



2018発行の宮城教育大学紀要に掲載された「大学生の歌唱における「音痴」意識—2000年と2013年の比較を中心として—」(著者:小畑 千尋氏)のデータに基づき筆者が作表した。

「江戸音曲事典」(編者:小野武雄、発行:展望社)の分類を基に、本双六のマス(赤字)の項目を当てはめて筆者が表組みにした。

尺八	舞踊	三味線	琵琶	箏(琴)	義太夫節	浄瑠璃	長唄	廓唄	俗歌	歌沢	小唄・端唄	大分類	
鈴懸流ほか	志賀山流、藤間流、坂東流、中村流、市山流、花柳流、若柳市川流ほか	八橋流ほか	薩摩琵琶、筑前琵琶	筑紫流、八橋流、生田流、山田流	竹本(義太夫)派、豊竹派、宇治、鶴沢(三味線)、野沢(三味線)、清元節、喜太夫節	(江戸) 説教節、江戸浄雲節(大薩摩・小薩摩)、江戸語齋節、近江節、金平節、土佐節、江戸土佐節、江戸肥前節、江戸半大夫節、江戸外記節、河東節、河東節、山彦(三味線)、江戸永閑節、文弥節、中節、中節、菅野派、都中節、豊後節、宮古路節、園八節、宮園節、常磐津節(松花節など)、岸沢(三味線)、新内節(鶴賀若狭、鶴賀新内、花園派、岡本派)、富本節	江戸長唄:江戸唄・座唄・軒屋系、謡手・吉村系、謡手・吉住系、謡手・富士田系、謡手・松永系、岡安派、めりやす	大尽節、片撥(かたはち)	丹前節、小倉節、小室節、追分節、相(間)の山節、道念節古今節、磯節、大漁節、看々踊	投節、籬節(つぎ節、次節、継節)つぎった、荻江節、加賀節	弄齋節、小六節、柴垣節、土手節、細り節、名古屋音頭、名古屋節、伊勢音頭、川音頭、潮来節、よしの節、都々、都々逸、とちりとん節、大津絵節、佃節、地唄、上方唄、葉唄、端唄、歌沢節	小唄・端唄	小分類

※3くずし字の解説にあたっては、カナダ・カルガリー大学の楊曉捷(X. Jie YANG)先生にご指導をいただきました。楊先生の絵巻に関するブログ: <http://emaki-japan.blogspot.com>

深い教養と機智を土台に発展した 江戸の話芸を紹介する双六

江戸の文化人が愛した 三題断とは？

三題断とは、落語家が客席から三つの題をもらって、即席で一席の断にまとめるものです。

文化元年に、江戸下谷の孔雀茶屋で初代三笑亭可楽が「弁慶・辻君・狐」の三題をまとめたのが始まりとされています。古典落語の名演目である『芝浜』や『鰻沢』もこの三題断を土台にしています。

立川談志の蘊蓄ある三題断

振出しは、男女の客で満員の寄席の風景です。高座には、サイコロの顔をした落語家が登場しています。背景の幕にある粋狂連・興笑連とは、三題断を推進したグループです。落語家のみならず、戯作者、狂言師、絵師などの文化人が多く参加していました。中央には振られた目の飛廻り先が書かれた札が下がっています(表①参照)。例えば一つ振れば、立川談志(三代目か)の腰元濡れ衣のマスに飛びます。そのマスには、花つくり・た、きがね・松花堂の三つのお題があります。それを立川談志が一つの断に仕立てます。ざっとこんな内容です。花つくり

の好きだった花魁が、鉦を打って金を稼ぐ夜鷹(比丘尼)に身を落とします。頭に花をつけて夜鷹に出るので花作りと呼ばれます。

本朝廿四孝が元となっており、花(菊)作りの簀作にかけています。松花堂庭園は、江戸時代初期に寛永の三筆として名を馳せた、石清水八幡宮の社僧・松花堂昭乗ゆかりの庭園です。深い教養と機知がなければ落語家は務まりませんなあ。

寄席は江戸のエンタメ産業

振出しから上りまでの各マスには、歌舞伎・浄瑠璃の15演目に27人が登場します。『仮名手本忠臣蔵』や『娘道成寺』などの有名な演目から引用されていますが、前髪佐吉、幻長蔵など現代からみれば、かなりの歌舞伎通でなければわからない人物もマスに取り上げられています。役柄とそれを演じる役者の関係も垣間見られます(表②参照)。

上りは、新年に相応しく、餅・海老・ゆずりはの正月飾りと3人の歌舞伎役者です。落語を楽しむにも、歌舞伎・浄瑠璃の世話物や時代物の演目に通じていなければなりません。つま

り、高い教養が求められたのです。

幕末期の識字率は、既に世界一で、60%以上ともいわれていました。その頃の江戸には170軒もの寄席がありました。

江戸庶民のリテラシーとインテリジェンスが寄席というエンタメ産業を支えていたのです。

◀表①
振出しの
垂れ幕

賽子の目	戯作者	飛廻り先のマスの役柄	歌舞伎役者
一	(立川)談志	(腰元)ぬれ衣	(市川)新車
二	(仮名垣)魯文	(斧)定九郎	(市村)家橋
三	(武田)交来	(神崎)基内娘おてる	(中村)歌女之丞
四	(朝寝坊)むらく	(紅絹裏・もみうら)基三(じんざ)	(澤村)訥升(とっしょう)
五	(落合)芳幾	(下部)虎蔵	(澤村)田の介
六	(梅素亭)玄魚	鬼一娘 皆鶴姫(みなづるひめ)	(河原崎)國太郎

マスの人物	歌舞伎・浄瑠璃の演目	内容
鬼一娘 皆鶴姫 (きいちむすめ みなづるひめ)	鬼法眼二略巻 (きいほつげん さんりやくの まき)	源義経が鬼一法眼の娘と通じて伝家の兵書を盗み学んだというエピソードを描くのが三段目、菊丸。虎蔵は飯の名。実は牛若丸。美少年ゆえに鬼一娘、皆鶴姫に惚れられる。
下部虎蔵	仮名手本 忠臣蔵	勘平は、恋人のおかると会ってために主人の塩治判官の大事に居合わせる事ができず、悲劇に見舞われる。定九郎は盗賊。お軽の父と市兵衛を殺害して金を奪う。大星由良之助は元国家老。
斧定九郎 於歌留(おかる) 大星由良之助	廓文章 (くるわぶん しま)	喜左衛門は大坂新町の揚屋吉田屋の主人。放蕩の末、家を勘当された藤屋の若旦那伊左衛門が喜左衛門夫婦の計らいで恋人の夕霧と夫婦になる。
吉田屋 喜左衛門 藤屋伊左衛門	一谷嫩軍記 (いちのたに ふたばくき)	熊谷次郎直実、主君義経の気持ちに自分の息子を討つという悲劇。石屋の弥次六は、実は平家にかわりある弥兵衛(平)宗清。義経とのやりとりが名場面。
弥兵衛宗清 熊谷次郎直実	熊谷陣屋 (くまがいじんや)	江戸時代初期に起きた筑前国黒田家のお家騒動が主要な題材。小機は漁師浪六の女房。
女房小機	志らぬひ譚 (ものがり)	濡衣は武田勝頼(実は偽者の愛人。運命に翻弄される哀れな女。謙信の館に入り、諏訪明神の法性の兜を取り返す機会を伺う。勝頼は、花(菊)作りの専門家の養子として謙信の館に雇われる。
腰元ぬれ衣	本朝廿四孝 (ほんちよう にしゅうしこう)	質屋伊勢屋の息子。騙されて質草の短刀を持ちだして金にする。
伊勢山仙太郎	勧善懲悪観 機関(かんせん ちまうあく のぞまかり)	江戸の侠客腕書三郎はもと結城藩の武士。喧嘩をしないとの誓いから右腕を自ら切断するが、勘当を受けた旧師神崎基内の危急を救い、勘当を許される。おてるは基内の娘。源太、基三、佐吉、長蔵は喜三郎をめぐる物語に登場する。紅絹とは紅で染めた薄手の絹布。
腕(うで)の 喜三郎 基内娘おてる 曙源太 紅絹裏基三 (もみうらじんざ) 前髪佐吉 幻長蔵	茲江戸小腕 達引 (ここがえこう でのたてひき)	阿古屋は京の五条坂の遊女。平家の落人で逃亡中の景清の愛人。源氏方の趣きある取り調べの後に釈放される。
傾城阿古屋 (けいせいあごや) 壇浦兜軍記 (だんのうら かぶとぐんき)		

◀表② 各マスの人物・演目の解説

三題新双六

▼双六の概要

画:一恵斎(落合)芳幾 彫り:松嶋彫政 版元:堀江町吉丁目團扇堂・伊場屋仙三郎 江戸後期 サイズ(cm):縦73×横75



●吉田 修(よしだおさむ)
1954年生まれ。鳥根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文化教育学会、特定非営利活動法人写楽の会の会員を務める。制作に携わり、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。



▲画師と彫師は双六絵と同様に梅素亭(ばいそてい)玄魚(げんぎょ)の校。寄席のめぐりの前で手ぬぐいを持った艶やかな女がしなを作っている。

※論文作成の手段より <https://www.forburnin.com/rule.html>
●論文における「図」とは、絵・写真・グラフを用いたり不定形のもの指します。●論文における「表」とは、文字・数字・記号・縦横の罫線だけで構成されるものを指します。

マスの人物	歌舞伎・浄瑠璃の演目	内容
石川五右衛門	楼門五三桐(ろうもんごさんのみきり)	大泥棒石川五右衛門が父の敵討つために、権力者である真柴久吉の命を狙う物語。逃げる五右衛門が、京都の南禅寺の山門で暮れ時の満開の桜を楽しむ名場面が有名。
道成寺	娘道成寺など	恋しい男安珍を追いかけて大蛇に変じた清姫が、安珍の隠れる道成寺の鐘に巻きつき焼き殺したという伝説が題材。
幸崎基内(向坂基内)	旭輝黄金鱗(あさひかがやくきんのしやちほ)	名古屋城の金の鱗を盗んだ柿木金助と盗賊幸崎(向坂)基内を絡ませた演目。
於梅(おのめ)の方 鳥居又助	加賀見山再右藤(かがみやまごにちのいわふじ)	お初に殺害された岩藤の霊が望月弾正を操り多智藩の乗っ取りをたくらむ。遺骨が集まって骸骨となり、岩藤が復活する名場面が有名。於梅の方は、多賀百万石の多賀大領の正室。又助はお家騒動に巻きこまれる忠義な小者。
玉藻前(たまものまえ)	玉藻前囃袂(たまものまえあさひのたまご)	玉藻前は平安時代末期に鳥羽上皇の寵姫であったとされる伝説上の人物。妖狐の化身であり、正体を見破られて下野国那須野原で殺生石になった。
飾間宅兵衛(しかまたくへい) (飾磨宅兵衛) 宅兵衛上使	真写(しんうつし)いろは日記(忠臣講釈囃図)	塩冶の足軽寺岡平右衛門は飾磨宅兵衛を名乗って、頼世御前の上使となつて訪れるが、一転して忠節の士となつて物語が展開する。

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第六回①

振り袖姿の生娘の行く末を、 冷静な目で描いた男尊女卑時代の双六

築地双六館館長 吉田 修

立身出世は双六の
人気ジャンル

立身出世は、絵双六の重要なテーマの一つです。立身は、中国の春秋時代に孔子が論じたものを戦国時代にまとめた儒教の経書の一つ『孝道』に語源があります。「立身行道、揚名於後世、以顯父母、孝之終也」。身を立て道を行い、名を後世に揚げ、以て父母を顕すは、孝の終わりなり。という意味です。

また、出世は仏教用語です。本来、仏が衆生を救うために、仮に人間の姿となってこの世に現れることを出世といいます。日本では、公卿の子息が出家した場合に出世と呼ばれました。普通の者より昇進が早く、転じて僧が高い位に昇り、大寺院の住持となることを指すようになります。それが一般にも広まったのです。

立身出世とは、世間的な名声と現世的な利益という名利みよりのりであり、古今東西、人々の大きな関心事でした。

女の社会の裏表を映す双六

婦人一代出世雙六は、江戸時

代の女性特有の職業を描いています。振出しは、正月の鏡餅の前にいる振り袖姿の町娘です。サイコロの六つの出目によって、落差の激しい人生を歩むこととなります。一子守り女、二かどづけ（家の門口に立って芸能を見せ、報酬を受ける芸人）、三お茶屋、四おさんどの（台所仕事）、五歌い好み、六辻きみ（夜道に立って客を誘う夜鷹）。全体の構図は、双六の下端にある色を売る職業から始まり、鮑取り・茶摘女・機織りなどの専門職、水茶屋・茶屋女などのサービスマン、琴・三味線・おどりの師匠、大奥の年寄・商家の御新造を経て、新春を寿ぐ武家の奥様で上りです（表①）。

江戸時代は、冥加金を納めることを条件に遊郭が公認されていました。非公認の商売には厳しく、多くの遊里事業者や従事者が検挙されました。背景には生活苦と男尊女卑の思想がありました。

本双六を描いた一鵬斎芳藤は、武者絵やおもちゃ画を得意とした絵師です。振出しの生娘の行く末を冷静な眼で見つめています。

身分制社会の中では、この娘は出世したとしても御新造さんかご内儀止まり、不幸ならば……。社会の底辺から上層までを見切ったリアリティとアイロニーに徹した双六なのです。風俗の取締りの厳しい中、板元の辻岡屋文助もリスクをとってこの双六を発行したと思われる。

兼好法師はお見通し

鎌倉・南北朝時代の随筆家である吉田兼好（推定1283〜1352年）は、徒然草の第38段でこのように述べています。

名利に使はれて、しづかなるいとまなく、一生を苦しむこそ愚かなれ（名声や利益に使われて、心休まる暇もなく、一生を苦しめることこそ愚かである）

未だに出世や名利に気を揉む我ら凡夫を兼好法師は「江戸も令和も変わっていないなあ」と嘆息していることでしょう。

■表①
双六の構成と
言葉の説明

御新造	上り 御奥様				御とし寄
おどりの師匠	手習師匠	琴の指南	御殿女中	三味線の師匠	機おり
後家様	蚕養女	お小嬢	茶摘女	おそば(側)※1	茶屋女
飯売婆あ	禿子(かむろ)	世話役婆あ	おすえ ※2	遊女	気楽な女
大姉へ	水茶屋	哥(うた)い好き	鮑取	取上婆あ	部屋がた ※3
おさんどの	子守女	かどづけ	番太のかみさん ※3	雇い婆あ	女太夫(おんなたゆう)
女おこじき	びくにん	振り出し 一 振れば 子守り女へ行く 二 かどつけ 三 おちゃや 四 おさんどの 五 哥い好き 六 辻きみ			辻きみ

※1:主君のそば近く仕える侍女 ※2:御殿女中が自費で雇って召し使う女 ※3:町方の木戸番に雇われた女
本双六には現代からみれば不適切な言葉がありますが、江戸時代の作者の意図を尊重してそのまま掲載します。

江戸時代末期、厳しい身分制度の中、加賀藩で作られた武士の出世双六

新番から御用番への出世

幕末の加賀藩は、加賀・能登・越中の三国の大半を領地としていました。この双六は小松・石動・魚津という地名のマスがあり、加賀藩家中の双六であることがわかります。振出しは新番（警護役）。割場奉行（足軽等の管理）、堂形奉行（弓道場等の管理）、会所奉行（藩主や奥向きの進物の出納）や年寄等を経て御用番（評定会議に出る重臣）で上りとなる墨版の武家の出世双六です。

文化4年（1807年）頃の加賀藩士の状況が記録されている「帳秘藩臣録」によれば、その構成は以下の通りです。①八家（年寄職にあたる門閥）8人、②人持（高禄者）68人、③平士1202人、④与力291人、⑤御歩（432人、御歩並397人）、⑥足軽約4000人。御歩は、藩主の駕籠廻りの警護や城内の番所などの警備にあたりました。御歩並には儒者・医師・算用者・料理人・大工・細工者など多様な職種を含んでいます。

余談ですが、御歩は最初、「御徒」の字を用いていたそうですが、五代藩主・綱紀が「いたづら」と読

まれることを避けて「御歩」に改められたそうです。

龍馬の活躍と同時代の双六

注目いただきたいのは文久3年（1863年）という時代です。坂本龍馬が神戸海軍操練所の塾頭となり、大活躍を始める年。有名な「日本を今一度せんたくいたし申候」という手紙を姉の乙女に送ったのもこの年です。この出世双六は、武士が作ったのではないと思えます。身分制度の厳しい時代に、面白半分での新番武士から城代や御用番への出世双六は作れません。欄外に記名のある中嶋郁衛という人がこれを戯れに写したものであるとして今日まで残っています。

明治維新前夜の加賀藩の立場

加賀藩は百二十万石を有する大藩でしたが、政治的に活躍する雄藩ではありませんでした（表①幕末における諸藩の石高ランキング）。ゆえに後代、日和見、旗幟不鮮明、維新のバスに乗り遅れたなどと揶揄されることがあります。そこに研究のメスを入れたのが『加賀藩の明治維新』（宮下和幸著、有志舎刊）です。同書によ

れば「明治初年、勤王貫徹のあり方として新政府への恭順をやむなく選択した」との見方を示しています。確かに、文久年間の藩政史（表②）文久年間の加賀藩政治動向をみれば、藩主の意向を反映した御前評議の意思決定に至るまでに、幕府への対応を大藩らしく、議論を尽くしていることがわかります。

加賀藩は、前田家代々の尊主という藩是を守り、朝廷から征夷大将軍を任じられた徳川幕府に忠実に従ってきました。明治維新の大波の前に大船が舵を巧みに切るには、時間がなすぎたのです。

■表① 幕末における諸藩の石高ランキング（文久3年幕府大目付調べに追記した）

順位	国名	石高	文久3年の藩主	藩格
1	加賀	120万石	前田正二位権中納言齊泰	外様
2	薩摩	72万8000石	島津従四位下修理大夫忠義	外様
3	陸奥	62万石	伊達従四位下左中将慶邦	外様
4	尾張	61万9500石	徳川従三位左中将義宣	三家
5	紀伊	55万5000石	徳川従三位権中納言茂承	三家
6	肥後	54万石	細川正四位下左中将慶順	外様
7	筑前	47万3000石	黒田従四位下左中将長溥	外様
8	安芸	42万6000石	浅野従四位下左少将長訓	外様

■表② 文久年間（1862～1863年）の加賀藩政治動向

年月	出来事
文久2年6月	江戸城において国事に関する意見があれば述べるようにとの上意を受ける。
6	年寄前田直信、国事に関する意見書を上申する。
文久3年2	藩主齊泰、將軍徳川家茂上洛に供奉する目的で金沢を出発する。
3	將軍家茂、家光以来となる上洛。
6	幕府から世嗣前田慶寧（よしやす）に対して出府を命じる奉書（御用召）が金沢に届く。
6	慶寧附一統が御用召による出府に反対する。
7	在京間番（※1）ききばんの津田権五郎が戻り、関白（※2）斎藤（なりゆき）の内意を持ち帰る。
7	年寄長連泰、ちよつとらやすらが議論し、その内容を示談書としてまとめる。
7	年寄奥村栄通（おくむらてるみち）自身の意見をまとめて御用番に提出する。
7	藩主御意及び「御前評議」にて公武和の周旋が決定する。
7	藩主齊泰の親翰（※2）しんかんが作成され、藩内で抜見される。
8	八月八日の政変。
9	間番の津田権五郎が江戸より戻り、老中水野忠精（ただきよ）からの上洛要請を伝える。
9	加判（※3）かはん一同、津田と面会して意見を徴取した上で議論する。
9	老中水野宛の藩主親翰が作成される。
10	在京間番が呼び出され、関白一条家からも上洛要請を受ける。

上記「加賀藩の明治維新」掲載の年表から筆者が文久年間の出来事を抽出して作成。元治、慶応の出来事は省略した。

※1 間番：大名が江戸の藩邸に置いた職名。幕府との公務上の連絡や、他大名との交際を役目とした。留守居。

※2 親翰：藩主自ら筆を執って書いた文書。

※3 加判：評定などの会議に出席資格がある重臣。

▼双六の概要 新板出世雙六(加賀藩)

絵師:未詳、「中嶋郁衛敷寫之」とあり 文久3年(1863) サイズ(cm):縦57×横47

新板出世雙六

文久三癸亥年正月吉日

中嶋郁衛敷寫之

年寄中 隱居	御年寄	諸大夫	御用番 上リ	御城代	御用番	加判御免
小松御城代	御奏者番	石動郡代	魚津在住	公事場奉行	若年寄	御家老
定番頭	御用部屋	人持末席	人持	諸方讀取火消	御算兩場奉行	定火消
御籠奉行	同学校奉行	同石動郡代	同魚津在住	組頭並	御馬廻頭	定番頭並
物頭並	御先弓筒頭	御留守居	御持弓筒頭	大組頭	聞番	町奉行
小松御馬廻	定番御馬廻	御大小將	組外御番頭	表小將	御新番頭	御物頭並
寄合	大小將横目	表小將横目	奥小將横目	頭並	御細工奉行	御使番
公事場横目	大金奉行	堺関守	遠所町奉行	御大小將	御表小將	御役御免
定検地奉行	割場奉行	御膳奉行	御納戸奉行	会所奉行	御作事奉行	御普請奉行
御射手	御祐筆	御勝手方	御武器奉行	御本物奉行	御預地奉行	御儀式御用達
町同心	小松御馬廻	定番御馬廻	御馬廻	御代官	道具奉行	御異風
新番	新番	組外	儒者	坊主頭	堂叔奉行	御近習番

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第七回①

「芸は身をたすく」と、多彩な 習い事が発展していた江戸時代

築地双六館館長 吉田 修

芸は身をたすく

この双六は、江戸いろはカルタにある「芸は身をたすく」を可視化したものです。この諺は古今東西に存在しており、「ローマ帝国伝」（著者：ローマ帝政初期の伝記作家スエトニウス）によれば、戦車の騎手であり、竖琴の歌手でもあった皇帝ネロ（在位54～68年）も「芸は身を助けるさ」と語ったと書かれています。

江戸時代も教育ママは健在

男女合わせて38種の芸事・習い事が描かれています（表①）。江戸時代の類書「守貞謄稿」の巻33『音曲』に、このような記述があります。女子、三絃、浄瑠璃を専らと習ふこと、すでに百余年前よりの習風なり。今世、ますます

この風にて、女子は七、八歳よりこれを学び、母親は特に身心を勞して師家に遺る。江戸は特に小民の子といへども必ず一芸を熟せしめ、それをもつて武家に仕へしめ、武家に仕へざれば良縁を結ぶに難く、一芸を学ばざれば武家に仕ゆること難し。

文武両道が求められた 武家の男子

武家の男子には文武両道が求め

られました。文武両道は、古く司馬遷の「史記」孔子世家に、「文事ある者ものは必かならず武備あり」と記されています。この双六からは、剣術・馬術から書画・俳諧まで、多様な稽古事が普及していたことがわかります。嫡男相続の武家社会にあつて、長男は出世のため、次男以下は養子として他家を継ぐために諸芸を磨く必要がありました。また、五代目志ん生は、女子にもてたい一心の男が稽古屋に通つて清元を習う場面があります。庶民の男子も芸事に熱心でしたが、動機がちと不純なこともあつたようです。参考までに、現代の子供の習い事の調査を紹介します。小中学生の約8割が習い事を行つており、小学生の習い事ランキングは別紙（表②）の通り

とで、「プログラミング・ロボット教室」が15位にランクされたことです。ちなみに、「将来どんな職業につきたいか」の小中学生の男女アンケートの結果は、1位が「パティシエ」、2位は「YouTuber」などのネット配信者」でした。江戸時代と現代では、目指すキャリアの方向性が異なっているとはいえ、習い事が好きな国民性は変わりませんね。

平和こそが諸芸を磨く

ローマ皇帝アウグストゥスは、主要な軍事力は帝国の辺境に配置し、外敵の侵入に備えるとともに、これ以上の領土拡張戦争を戒めました。これにより2000年間の時代は、「パクス・ローマナ（ローマの平和）」と呼ばれ、空前の繁栄と平和が続き、文化・芸術が全土に浸透しました。日本においても、パクス・トクガワナとの平和な260年があつたればこそ独自の文化が爛熟し、諸芸が発達したのです。翻つて、近時のロシアのウクライナ侵略が双方の文化・芸術をも崩壊せしめることを懸念するのは筆者だけではないと思います。





■ 表② 小学生の習い事ランキング2021

順位	習い事	順位	習い事
1	水泳	9	そろばん
2	受験・学校の補習のための塾	10	ダンス(バレエ以外)
3	通信教育	11	その他スポーツ
4	英語塾・英会話教室	12	武道
5	音楽教室	13	野球(硬軟)・ソフトボール
6	習字・書道	14	バレエ
7	体操教室	15	プログラミング・ロボット教室
8	サッカー・フットサル	16	バスケットボール

■ 表① 諸藝盡し出世語録の構成と言葉の説明

馬術	狐けん ※1	謡	上り (長刀芸古の囃)			歌詠	茶の湯	生花
	碁将棋		能	書画	投扇弓(興)※2	俳諧	剣術	
踊り	角力				鞠り	弓	茶番	
十術	もっさん	槍	水およぎ	講釈		義太夫	越中ぶし	
常磐津	噺し	うつけ絵 ※3	振出し (三曲合)			富本 ※4	手習い	はり仕事
清もと	太神楽					座敷持 ※5	万歳	しん内

※1きつね拳：酒席の座興で、キツネ・猫師・庄屋を装って行うじゃんけん。
 ※2：投扇弓(興)：京都に伝わる豊遊びで、扇を投げて落ちた位置によって点数を競う。
 ※3うつけ絵：幻灯機による娯楽。文楽の人形や歌舞伎役者の代わりに映像を用いて楽しませることもあった。
 ※4富本：浄瑠璃の一流派の富本節。
 ※5太神楽(だいかぐら)：祈禱のための獅子舞や傘回しなどの曲芸で人気のあった寄席芸能。
 ※6座敷持：専用の座敷を持つ格付けの高い遊女。

出所:学研教育総合研究所「小学生白書web版2021」
 調査対象:小学生1200名(男女各600名) 調査期間:2021年8月27~30日

大名家の家格を決める 官位の知識を持つための双六

官位とは？

官位双六は朝廷の役職や位階をマスに表した出世双六です。江戸時代の大名は、幕府の承認を得て朝廷から官位(官職と位階)をもらい、越前守などと官職を名乗っていました。位階は序列の等級で、一般の大名は従五位下、20年以上在任の大名や下位の国持大名、老中、京都所司代などは従四位下、島津家・伊達家は従四位下から従四位上、前田家が正四位下、水戸家が従三位、尾張家・紀伊家が正三位から従二位などとなっています(集英社・indiasの『大名官位』に関する山本博文先生の記述を参考にしました)。

複雑かつ難解なルール！

この双六は一体どこが振出し

で、どのように進むのか筆者には理解できませんでした。そこで、

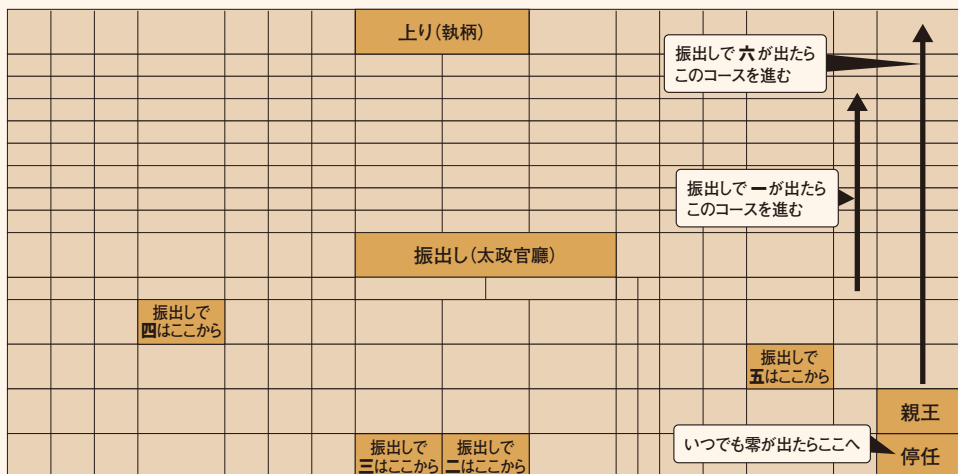
同じ双六を所蔵されている米沢市上杉博物館の学芸員の佐藤正三郎氏に説明文をご提供いただき、それをまとめてみました(下記官位双六の遊び方)。太政官廳からの振出しで、大外記・少納言・親王・停任などを経て、上りの執柄(撰政関白)に至るまで、複雑なルールのもとで飛廻り双六が展開されます。双六に零という目があることや特定のマスにとまった人がいれば金銀の札をやりとりするのもユニークです。

上杉鷹山も学んだ？ 大名も気にする官位

全国の大名は朝廷の官位を有し、それが家格(序列)を決定づけました。また、官位を受けるにあたっては金子を進上するこ

とになっており、それが、皇族・公家から地下官人などにも配分されました。第11代米沢藩主上杉斉定(上杉鷹山の義理の孫)がこの双六を使用した旨の記録が残っています。義理の祖父である9代藩主治憲(鷹山)は、孫の斉定を引き取り、寝起きを共にして熱心に養育したといわれています。上杉家が官位を気にしていた証でもあるこの出世双六を、鷹山公は孫の教育に使ったのかもしれませんが、因みに、斉定は従四位下式部大輔から左近衛権少将にまで出世しました。鷹山公の思いが通じたのでしょ。

■ 官位双六の遊び方



▶ 本来は黒い棒と白い棒が各六本入ったクジの箱(サイコロの役割を果たし、ゼロ・六の目がある)と、金・銀の札の表には一・五、裏には梅や桜を描いたもの(金銭の役割、碁石で代用可)を準備し、遊んだもの。





〈主なルールの概要〉

- ① 中央下部の「廳」振り出しに、クジで出た目に従って最上段の「執柄」(摂政関白)を目指す。
- ② 最初にクジを振り、出た目によって身分(進むコース)が決まる。親王になれば右端を進みず、ゴールできるが、地下の場合是最下段から無数の升目がある。
- ③ 全て白(ゼロ)の目が出たら停任。次に一か六の目が出るまで休み。
- ④ 升目によっては止まれる人数の制限がある(先にいた前任者はルールに従い他の升に移る)。
- ⑤ 新蔵人など特定の升にとまった人がれば金銀の札をやりとりする(贈り物)。朱で囲まれた升は定員なし、その他の升は定員あり。

※本双六の遊び方については、米沢市上杉博物館学芸員の佐藤正三郎氏にご提供いただいた説明文を参考にしました。

●吉田 修(よしただおさむ)

1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文化教育学会、特定非営利活動法人写楽の会の会員を務めるかわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。

▲公式HP

<http://www.sugoroku.net/>
(常設展/絵双六にみる職業観の変遷特集/大正ロマン/双六特集など)

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第八回①

江戸時代の銭湯は庶民の社交場 女湯には様々な立場の女性が登場

築地双六館館長 吉田 修

銭湯は庶民の社交場

この双六を見てあるドラマのオープニング画面を思い出す方は結構なご年配でしょう。それは1970年代の人気TVホームドラマで、銭湯を舞台にした『時間ですよ』。橋田壽賀子や向田邦子らが脚本を担当していました。江戸時代の『浮世風呂』(式亭三馬作)にもあるように、銭湯は庶民の社交場でした。この双六には茶屋娘、おめかけ、踊りの師匠、御新造など様々な庶民が描かれており、女湯の艶やかさと喧騒、湯屋の檜の香り、湯気の熱気が伝わってきます。

江戸の銭湯 始まりは天正19年

我が国最初の浴室は飛鳥時代の法華寺に設置された仏教由来のもので(表②)。奈良時代の天平年間の『温泉経』(正式名称『仏説温泉洗浴衆僧経』)には、沐浴することで「七病」を除き、「七福」を得ることができると説かれています。以降、富裕層において仏事や祝いのための施浴が行われ、やがて、庶民にまで広がりしました。天正19年には伊

勢与市が江戸で最初の銭湯を建て、慶長年間の終わりには「町ごとに風呂あり」といわれるほど銭湯が普及しました。

江戸時代は混浴が当たり前でした。嘉永6年に来航したペリー提督の『日本遠征記』には、「日本人は道徳心に優れているのに、混浴しているのを見ると道徳心を疑ってしまう」と記されています。江戸時代の後期には幕府によって混浴は厳しく取り締まられました。形式のだったようです。板元がこの双六を出版するにあたっては、男女に仕切った風呂屋を描かざるを得なかったことでしょう。

目出度い初湯双六

双六の構成を見ましましょう(表①)。振出しは右下にある脱衣用の籠と箱です。箱には一茶屋娘・二芸者・三番頭・四小間使い・五おしゃべり・六子持ち、と出目の飛び先のマスが示されています。右上の窓の外には、紅白緑の一文字ぼかしの空に白梅が冴え、窓際には、海老と筍の柄に手ぬぐいがかかっており、正月の目出度い初湯であることがわかります。

風呂屋のキャリアアップ

この双六には、子供を除いて男が四人います。そのうちの二人は三助です。お湯の準備や客の背中を流す男性のことです。当時の風呂屋におけるキャリアアップはこうです。雇い入れ後、三助見習として昼間には普請場や解体現場に行つて薪になる廃材などを貰つてきて、夕方には客が脱いだ服や靴などを片づけます。見習いから2年たつと釜焚きができ、3年目に客の身体を洗う「流し」の許可が降りて初めて「三助」と名乗ることができたそうです。しかし、一人前として認められるには10年以上の修業期間が必要でした。三助の中には客からのチップを貯めて風呂屋の経営者へと独立する者もありました(※)。

ユニークな寄席の広告

面白いのは左上の寄席の広告です。圓朝、志ん朝、柳橋等の落語家や座敷浄瑠璃の案内木札が掛かっています。庶民の男女が集まる風呂屋では、広告効果も高かったことでしょう。上り

では、役者絵を嵌め込んだ豪華な門構えの入口が湯舟へと誘っています。お風呂は日本文化に深く根差しているものですね。

■表① 遊嬉肌初湯双六の構成

		上り					
和佐の助	水魚連				花の師匠		
志ん朝	三こう*						おめかけ
		新内うたい	おかみさん		踊りの師匠	ながし*	
清元のねえさん		あねご	おんばさん	お嬢さん			振出し
	端唄の師匠	おさんどん				おしゃべり	
	おぼこ娘		琴の師匠	子持ち			茶屋娘
	後家	困い女	御新造	娘			
番頭		小間使い		女髪結い		芸者	

*三こう・ながし(三助)については、Japaaan magazine (https://mag.japaaan.com/)の歴史・文化を参考にした。

▼双六の概要 遊嬉肌初湯双六

江戸後期 画:一恵斎(歌川)芳幾 板元:堀江町二丁目海老屋林之助 サイズ(cm)::縦62×横72



▼あけぼの湯(江戸川区船堀)
東京に現存する最古の銭湯。安永2年(1773年)創業のアルカリ性天然温泉。写真は本年9月17日に撮影。営業前から25人が並ぶ人気ぶり。



東京銭湯／東京都浴場組合の公式HPの情報を筆者が抜粋して作表した。

時代	出来事
飛鳥時代	仏教は沐浴の功德を説き、法華寺に浴室が設置され、施浴が盛んに行なわれた。
平安時代	京都に銭湯のはしりともいえる「湯屋」が登場。
鎌倉時代	源頼朝が後白河法皇の追福(死者の冥福を祈り仏事を営むこと)で百日間の施浴、幕府が北条政子の供養で長期間の施浴を行う。
室町時代	日野富子が両親の追福で縁者を招待し、風呂や食事をふるまう。この風呂ふるまいは富裕階級でひらまる。地方では、信者が薬師堂や観音堂に集まり、浴後に宴会を催す「風呂講」が行われた。
安土桃山時代	天正19年に伊勢与市が江戸で最初の銭湯風呂を建てる。家康の江戸入府以降、慶長年間の終わりに「町ごとに風呂あり」といわれるほど銭湯が普及した。
江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> ◎「戸棚風呂」(下半身浴の蒸し風呂)の登場。「水すじ」風呂(湯の風呂)が庶民に広がる。江戸では「鉄砲風呂」(桶に鉄の筒を入れて炊く)が、上方では「五右衛門風呂」(桶底に平釜をつけて炊く)が広まる。 ◎湯茶を提供し、背中を流す湯女が大評判になる。 ◎明暦3年に幕府は湯女風呂を取締り、湯女600名を吉原送りとし、湯女風呂が廃止された。以降、銭湯は囲碁・将棋・茶菓でもてなす社交場として利用される。 ◎天保の改革で混浴が厳しく取り締まられ、男湯と女湯に形式的に仕切られた。
明治時代	<ul style="list-style-type: none"> ◎「改良風呂」により、屋根に湯気抜きが作られ、洗い場が広くなり、湯船の縁が高くなり、汚れが入らなくなった。 ◎明治12年に「湯屋取締規則」により、最初の法的規制が施行される。
大正・昭和時代	<ul style="list-style-type: none"> ◎タイル張りが普及し、昭和2年には浴室の湯・水に水道式のカラںが取り付けられ、衛生面が向上する。 ◎昭和23年に「公衆浴場法」が施行される。

■表② 銭湯の歴史

歌舞伎や浄瑠璃の教養が試される 三味線歌曲「歌澤」の双六

歌澤(歌沢)とは
ハインな三味線歌曲

江戸には実に多くの種類の音曲があり(2022冬号参照)、その一つが歌沢です。歌沢は幕末に端唄から派生した三味線歌曲で、創始者は旗本の歌沢笹丸(1797~1857本名:笹本彦太郎)です。端唄は短い曲にのせて庶民の暮らしを歌うものですが、歌沢は端唄に品と重みを付け、丁寧に、ゆっくりとした歌い方をします。また、端唄が大衆に広まったのに対し、歌沢は技巧的かつ粋で、洗練されたものが多く、身分ある人々の間に浸透していったといわれています。ちよつとハインな三味線歌曲だったといえます。

上りの歌詞は
伊勢物語由来

歌沢の構成と歌詞を見てみましょう(表①)。上りに描かれている歌詞はこうです(※1)。

戸すみよしの きしの姫まつ我
見ても ひさしくなりぬ 瀧の水
たへず おふせを 松の葉の色
かわらじと ころのたけをあ
かして むすぶいのち 中さへも
ふいふい ふいやさ月。

これは、伊勢物語の「我見ても

久しくなりぬ住吉の 岸の姫松い
くよへぬらむ」に由来するもので
す。その意味は「私が見ても長い
年月がたった。この住吉の海岸の
美しい松はどのくらいの年代を経
てきたのであろう」というもので
す(玉川の端唄は※2参照)。

教養が試される
インテリ双六!

振出しは三味線の師匠と弟子の
職人と若旦那のようです。背景に
は、一ひとこへは・二みひとつ
(へ)・三おまへと・四はおり・五
うじ(へ)・六あさがを、と出目
の飛び先のマスを示した木札が掛
かっています。例えば、一目が出
たら、トひとこへはトのあるお梅
久米之助のマスに進みます。この
二人は『心中万年草』(通称・高
野心中、浄近松門左衛門作の浄瑠
璃)で情死する登場人物です。こ
う謡われています。

戸一声は月が鳴いたか時鳥いつ
しか白む
短夜に まだ寝もやらぬ手枕や
男心はむごらしい 女心はそう
じやない 愚痴なようだが 泣い
ているわいな戸
女の視点で、男女の心情の隔た
りについて嘆く気持ちが謡われ

ています(※3)。この双六には、
歌舞伎や浄瑠璃上の20組の訳あり
の男女が登場します。江戸時代の
読者には、演目や筋書きを理解し、
名場面の歌沢を誦するレベルの
教養が求められたことでしょう。
遊ぶというよりも、熟読して歌沢
の世界に浸りきるた
めのインテリジェン
ト双六であったと思
います。

難解な崩し字を
アプリで読み解く

この双六で苦労し
たのは崩し字の解説
です。例えば、あさが
おの「顔」と、ひとこ
へはの「ひ」です。筆
者は、文字の拡大写
真を見てもとても読
めませんでした。く
ずし字データベース
検索(人文学オーブ
ン共同利用センター)
を利用して、やっと
読むことができました
た(表②)。このアプ
リには多くの古文書
から抽出したあらゆる
手書き文字がデー

■表① 新板歌澤壽雙六のマスと出典演目(推定)

梅川・忠兵衛 <small>こいのたよりやまとおうらい (恋飛脚大和往来)</small>	浦里・時次郎 <small>あけがらすゆめのあわゆき (明烏夢泡雪)</small>	上り※1		与三・お富 <small>よわなさけうきなのよこぐし (与話情浮名横櫛)</small>	お七・吉三※2 ト玉川の (櫓のお七)
瀬川・五暁 <small>こいあせはうたづし (恋合端唄尽)</small>	おはん・長右衛門 <small>かつらがわれんりのしがらみ (桂川連理櫛)</small>	かつらぎ・山三郎 <small>うきよつかひよくのいなすま (浮世柄比翼稲妻)</small>	おこん・みつぎ <small>いせおんどこいのねたば (伊勢音頭恋寝刃)</small>	小三・金五郎 <small>ところばいけいこいのぬきがき (南恋忍抜粋)</small>	小まん・源五兵衛 <small>ごだいりきこいのふうしめ (五大力恋絨)</small>
お染・久松 ト宇治川や <small>しんぼんたざいもん (新版歌祭文)</small>	三勝・半七 <small>はですがたおんなまいぎぬ (艶容女舞衣)</small>	小紫・権八 <small>そのこうゆめもよしむら (其小唄夢廓)</small>	おなか・清七 <small>せいしちゆかり はなぞめ (おなか清七由縁の花染)</small>	三与吉・新三郎 <small>はちまんまつりよみやのにぎわい (八幡祭小望月販)</small>	あさ顔・阿曾次郎 トあさがおの <small>いきうしあさがおぼなし (生写朝顔話)</small>
八つはし・次郎左衛門 トはおりかくして <small>かごつるべきとのえいざめ (籠釣瓶花街酔覚)</small>	おつま・八郎兵衛 ト身ひとつ <small>ふみつきうらみのさめざや (文月恨鮫鞘)</small>	振出し		お梅・久米之助 トひとこへは※3 <small>しんじゅうまんねんそう (心中万年草(通称:高野心中))</small>	お夏・清十郎 トおまえとの <small>(姿姫清十郎物語)</small>
		一 ひとこへは	二 みひとつ(へ)		
		三 おまへと	四 はおり		
		五 うじ(へ)	六 あさがを		

<マスの文章の読み下し事例>

※1 すみよしの きしの姫まつ我見ても ひさしくなりぬ 瀧の水 たへず おふせを 松の葉の色かわらじと ころのたけをあかして
むすぶ いのち 中さへも ふいふい ふいやさ
※2 玉川のみぎにさらせしゆきのはだ つもるくぜつのそのうちに とけししまだのもつれがみ おもひださずにわすれずに またくるはるをまつぞへ



■表② 難しい崩し字の事例

①あさ顔 阿曾次郎の「顔」



安永4年(1775年)刊の江戸時代の方言辞典『物類(ぶつる)』(称呼(しやう))「より」。

②かゝは「か」



宝暦11年刊の『御前菓子秘伝抄(ごぜんかしひでんしやう)』より。

●吉田 修(よしだおさむ)

1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文化教育学会、NPO法人写楽の会の会員を務める。かたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。

▲公式HP

<http://www.sugoroku.net/> (常設展/絵双六にみる職業観の変遷特集/大正ロマン/双六特集など)

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第九回①

東海道を旅する人の土産物だった 大津絵を取り入れた縁起物双六

築地双六館館長 吉田 修

江戸の正月風景

お正月は特別のハレの時であり、双六や暦などの刷り物がよく売れました。当時は皆が一斉に歳を取る数え年であり、正月には一年を生き抜く希望や幸運を与えてくれる年神様が来迎するといわれていました。そのために庶民は色々な縁起物を買って揃えたものです(表①・資料①)。正月を寿ぐ庶民のわくわく感と粋な売り子が想像できます。

縁起物双六は江戸時代のロングセラー

この作品は、角版に丸い形のユニークなお正月双六です。江戸時代には、「双六売り」という仕事があり、「新版かはりました道中双六：」「道中双六おたから、おたから：」と、売り声を江戸市中に響かせていたとの記録があります。江戸の版元は、新版の双六を売り出し、毎年庶民に買い換えさせるという賢いマーケティング戦略をとっていました。

キーワードは、大津絵

この双六の21マスに共通するキーワードは大津絵です。大津絵

表① 年末年始の縁起刷り物売り

商売	説明
双六売り	元日の朝から松の内の間に行商した。 洒落本『客者評判記』(安永9年)には、「宝船宝船道中双六福神双六と、商人も能絹(よいきぬ)きたるお江戸のはんじやう」と江戸巷間の賑わいが述べられている。双六売りは風呂敷または派手な模様の布を頭からかぶっていたという。
宝船売り	正月2日の夜に、宝船の絵を枕の下に敷いて寝るとよい初夢を見られるという風習による。 例えば、七福神の乗合船の絵柄に「長さ夜のおの眠りのみな目ざめ、波のり船の音のよきかな」という回文(上から読んでも下から読んでも同じ文句)の歌を墨で刷ったものを売り歩いた。
暦売り	当時の暦は専売制で、大経師暦(京暦)のほか、伊勢暦、三嶋暦、奈良暦などがあった。江戸では元禄年間に、幕府により版元が11軒に定められていた。江戸では12月下旬から正月末まで、「重宝大小柱こよみ、綴りこよみ」と売り歩いた。
凧売り	幕末の江戸には凧の卸屋は7軒もあり、繁盛していたという。凧風、鳶風、三番凧風、剣凧など多種類あった。 「絵凧より字凧は凡俗半減」といわれ、武者絵などの人気が高かった。字凧には、蘭・寿・鷲・竜・嵐・虎など画数の多い字が選ばれた。

は、滋賀県大津市に江戸時代初期から続く民俗絵画で、東海道を旅する旅人たちの間の土産物・護符として知られていました。大津絵十種(表②)を中心とした縁起のいい事柄が双六化されています。当時は誰もが知っていたアイコンだったのでご利益が共有されたのです。上方の素材が江戸で活かされた事例といえるでしょう。

二大巨匠参加の貼り交ぜ双六

双六の構成を見ましましょう(表③)。振出しは、歌川広重の筆による大津絵の絵師浮世又平です。歌舞伎・人形浄瑠璃の名演目『傾城反魂香』の登場人物です。上りは、鶴に乗った又平福祿寿という正月らしいめでたい絵柄で、三代目歌川豊国によるものです。又平の描く福祿寿は定番となっており、それを豊国が画題としています。この双六の構成を見て、私は一つの仮説を持っています。振出しと上りは、江戸浮世絵の巨匠によるものですが、残りの19の円形に貼り付けられているマスの絵は、無名の絵師によるものではないかと思えます。いわゆる「貼り交ぜ双六」の形式になっています。広

重と豊国というビッグネームも織り込んだパッチワーク双六といえるでしょう。板元は伊場屋仙三郎で、屋号は「團扇堂」「伊場仙」です。文政年間から現在まで続く扇子・団扇・浮世絵の老舗です。かくして、団扇作りの技術も活かした貼り交ぜ双六が出版されました。江戸のみならず、各地でおおいに売れたことでしょう。

※伊場仙(東京日本橋)HP: <https://www.ijasan.co.jp/>

表② 大津絵十種

NO	画題	効用
1	雷公の太鼓釣り	雷除け
2	槍持奴	一路平安道中安全
3	寿老人	長命を保ち百事如意
4	矢の根	目的貫徹思い事叶う
5	瓢箪鯉	諸事円満に解決し水魚の交わりを結ぶ
6	座頭	倒れぬ符(る)
7	釣鐘弁慶	身体剛健にして大金を持つ
8	鬼の寒念仏	小児の夜泣きを止め悪魔を払う
9	鷹匠	利益を収め失物手に入る
10	藤娘	愛嬌加わり良縁を得る

大津絵の店元(<http://www.otsue.jp/intro.html>)を参考にした



■ 資料①

江戸の売り子のイメージイラスト

双六売り



曆売り



宝船売り



※このイラストは江戸時代の資料を踏まえて築地双六館で作成したものです。作者は Nerua さんです。 ©Nerua

■ 表③ 双六の構成と大津絵十種

げぼう はしごり ※1	猿酒	為朝	鬼三味せん	船頭	ひやうたん駒	矢の根五郎 ※2	ひやうたん鯨	座頭 (二上り)	弁慶 (五上り)
上り 福禄寿									
奴行列	雷 たいこ つり	鷹	猫 ずみ 猫 鼠 酒 もり ※4	天満宮	ふり出し 又平 (左りへ順にかぞへ まはるべし)	まびす (六上り)	藤娘 (三上り)	鷹匠 (一上り)	鬼念佛※3 (四上り)

マスの
言葉解説

※1げぼう(外法)はしごり:外法は仏教から見た異教のこと。外法頭とは上部が大きく下部の小さな頭のこと。福禄寿の異称。梯子にのって髪を剃っている。 ※2矢の根五郎:曾我物語の曾我五郎が、父の敵、工藤祐経を討とうと矢の根を研いでいる。 ※3鬼念佛:冷酷残忍な人がうわべだけ慈悲深くみせかけること。柄にもなく殊勝にふるまうことをひやかしという。 ※4猫鼠酒もり:大津絵で人気の画題。本来食べ、食べられる両者が酒盛りに興じている。お酒に呑まれて我を忘れることの戒め。

情緒あふれる端唄の世界が イメージフルに展開された双六

男女の情愛を歌う端唄

葉唄は一般に端唄と記され、幕末の頃、江戸巷間で流行した小曲で、細棒三味線を伴奏に歌います。一曲の長さが短く、リズム・拍子が規則的なことが特徴で、季節の風物や男女の心の機微などを表現しています。1920年代までは小唄も端唄の名で呼ばれていましたが、その後、うた沢・小唄俗曲と区別されるようになりました。上方の「端唄」とも区別されています。上方の「端唄」特徴は、ほとんどのマスが男女の細やかな情愛を歌っていることです(表①)。読者の皆さんには、この双六を正月気分一杯やりながら、江戸の風情に思いを馳せ、じっくり眺めつつ読み解くことをお奨めします。とつてもディープでクールな世界なのです。

江戸の風情をイメージして

この双六を説明する前にお願ひがあります。

こういうシーンを想像してみてください(表①)。隅田川の猪牙舟で吉原に向かう若旦那、それを待つ馴染の女。夕ぐれ時に雪

が降り積み…。江戸時代のことゆえ本設定をお許しくださいませ。

振出しの歌は、「あまり しんき くささに」とありますが、これは、有名な端唄の前半の歌詞を端折つたものです。全体はこうです。「待ちわびて 寝るともなしに まどろみし あまり しんき くささに たなのだるまさんを ちよいとをろし はちまきさせたり ころがしてもみたり」。男を待ちわびる女のじれつたさ、所在なさがぐつと伝わってきます。

梅に鶯の華やかな上り

上りの歌は「初卯がへりに梅やしきかをりをしたふ鶯や 枝にやどかる ころねは しほらしい はるのとも」。これは、亀戸神社に正月の初卯参りをした時の歌だと思われまます。江戸時代には、亀戸神社の北東に3000坪の広大な「亀戸梅屋敷」と呼ばれた梅の名所がありました。その様子は、歌川広重の描いた『東都名所亀戸梅屋敷』や『江戸名所図会』の挿絵などで見る事ができ

ます。ほのかに香る梅の花とその枝に宿す鶯が春間近いことを表しています。

艶っぽい袋絵

双六を入れる袋絵も秀逸です(写真①)。三つの挿絵は、女の寝間着のかかる屏風、松に揺れる屋形船、吉原の夜桜とその端唄です(表②)。絵も歌詞もなんと艶っぽいことでしょう。買わずにはおれませんが、版元の海老屋林之助の狙いがよくわかります。この双六が発行された当時は、日米修好通商条約が結ばれる一方、安政の大獄による弾圧の嵐が吹き荒れていました。端唄は世の流れにも敏感で、黒船来航・コレラ流行・安政大地震・西南戦争などの事件も唄い込んでいました。端唄はとても懐深いのであります。



▲写真①

■表① 双六の構成

むっとして※3	桜見よとて※4 (此所にて一つふれば上り)	わがもの※5	夕ぐれ※6	巡るひの (此所にて五つふれば上り)	はお里かくして (此所にて一つふれば一と廻り休み)	あさくとも	小諸※7 (此所にて三つふれば上り)
上り: 初卯がへりに 梅やしき かをりをしたふ鶯や 枝にやどかる ころねは しほらしい はるのとも							
とふやま	淀の車 (此所にて四つふればふり出しへもどる)	角田の流れ舟※2	ひとこえ※1	しんき ふり出し	わしが思ひ (此所にて六つふれば上り)	松の唐崎 (此所にて五つふれば上り)	いなりまつり

マスの葉唄(端唄)の紹介(例)
 ※1:ひとこえ 月が啼いたか ほととぎす いつしかしらむ みじか夜に まだ寝もやらね 手枕に 男ごころは むごらしい 女ごころは 左様じやない 片時遭わねば くよくよと 愚痴なおもひで 泣いているわいな ※2:角田の流れに 舟とめて どてを見めぐり よいざまし おもいをいふに いほさきの 恋しき人を待ち ※3:むっとして(※) かへれば 門の青柳 曇りし胸を 春雨の 月のかけならば おぼろにしてほしや ※4:桜見よとて 名を付けて まつ朝桜夕桜 よい夜桜は 間夫(まぶ)の屋桜 エドふなと首尾して あわしやんせ 何時じや たそや行灯 ちらりほらりと 鉄棒引く ※5:わがものと 思へばかろし かさの雪 恋の重荷をかたにかけ いもがり(※)ゆけば 冬の夜の 川風寒く千鳥なく 待つ身につきさ 置こたつ じつにやるせが ないわいな ※6:夕ぐれに ながめ見わたす すみだ河 つきにふせいの まつちやま ほあげたふねが 見ゆるぞへ あれ鳥が鳴くとのり 名のみやこに 名所があるわいな ※7:小諸出てみよ 浅間の山に けさけむりが 三筋たつ 天へのぼりて くもとなる

しんぱんひとくちしらべはうたすごらく
 ▼双六の概要 **新板一口調葉唄雙六**

画:一笑齋(歌川)房種 梓元:堀江町二丁目海老屋林之助 安政6年(1859年) サイズ(cm):縦54×横50



■表② 袋絵の説明

曲目	歌詞
雪は巴に	雪は巴に降りしきる 屏風は恋の仲立ちに 蝶と千鳥の三つぶとん※(元木に帰るねぐら鳥 まだ口青いじやないかいな ※三つ浦田:最上位の遊女が用いる三段重ねのぶとん
月あかり	月あかり 見えるは おぼろの船の内 あだな二上り※ 1) 爪弾に 忍び逢ふ夜の首尾の松※2) ※1:二上り:三味線の調弦法のつ ※2:首尾の松:吉原帰りの客がこの松の生えている場所を舟を泊め今宵の遊女との首尾を語り合ったことに由来(諸説あり)
夜さくらや	夜さくらや うかれ鴉※のまゝいと 花のこかげにだれやがわいのわいな とほげんすな めぶき柳が 風にもまれて ふわりふわりと おおさ そうじやいな そうじやわいな ※浮かれ鴉:吉原雀と同様に浮かれ男が舞い舞い歩くのと毎夜毎夜とをかけた言葉

●吉田 修(よしだおさむ)
 1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文化教育学会、NPO法人写楽の会の会員を務めるかたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。
 ▲公式HP
<http://www.subgoroku.net/> (常設展 / 絵双六にみる職業観の変遷特集 / 大正口マン双六特集など)

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第十回①

江戸の洒落っ気がうかがえる「木」にまつわる言葉遊び双六

築地双六館館長 吉田 修

言葉に遊ぶ「物尽し双六」

江戸時代には、同じ種類の事柄を列挙する「物尽くし」という言葉遊びがありました。

今号の双六はその一種で、「木尽し」、つまり、「き」の駄洒落オンパレード双六です。駄洒落とは、同じ、あるいは非常に似通った音を持つ言葉をかける言葉遊びのことです。地口じぐちともいいます。

江戸の享保年間（1716～1736）の頃、「春眠暁をおぼえず」と言ったら、すぐ隣の人が「遊人盃を押さえず」と返したそうです。これが地口で、地は江戸を指し、口は言葉のことで。江戸っ子の洒落気が現れています。

人間の業を描く

27マスの双六を見てみましょう。気まま短気、家内睦まじき、金のなる木…つまり、マスの一つひとつには、喜怒哀楽、人間関係、損得勘定などの人間の業わざが描かれています。これらは現代でも通じるものですね。七代目立川談志は「落語とは人間の業の肯定だ」と看破しました。この双六は落語の世界そのものです。

歌川芳綱の俯瞰するチカラ

作者の歌川芳綱は幕末に活躍した浮世絵師で、武者絵・風俗画・双六絵を得意としていました。中でも、「子供遊春の出初でせめ」（嘉永5年）は名品です。江戸の町全体を鳥瞰した構図に、出初のための纏まと・梯子はしご・鳶口とびぐちをもち、火消装束の子どもたちの列を描き上げています。本双六においても芳綱の森羅万象を俯瞰するチカラが発揮されています。浮き世や人の業わざを凝視し、面白おかしく、洒落のめししています。

例えば、上りの「金のなる木は元しやうじ木」です。恵比寿と大黒と金のなる木の組合せは定番物ですが、両人が舞い上がり、小判が溢ふれ返る様は、神様の品位を損なっています。また、「ゆだんなの木」は、ちと恐ろしいマスです。両手をついて挨拶する侍の横には、襖ふすまに隠れて刀を振り降ろさんとする首切り人がいます。武士の冷酷無残な世界を小さなマスに描き込んでいます。

木から木への飛び廻り双六

双六の構成を見てみましょう

（表①）。振出しは「初春は御目出た木」と、新年を寿ぐマスで始まり、サイコロの目によって、①いさぎよ木 ②たしなみよ木 ③なまけた木 ④ついへのな木 ⑤うは木 ⑥あさを木へと飛び廻ります。

飛んだ先のマスにも出目によって飛ぶ先が指示されています。指示のない目が出た場合はステイです。き尽しの人生模様双六、あなたも遊んでみたくなりました。

海外にもある駄洒落

似通った音を持つ言葉をかけて面白がるのはどの言語であっても同様です（表②）。ここでは、英語、中国語、ドイツ語の事例を挙げていますが、古今東西、人間に共通した遊びの精神文化として駄洒落は存在し、進化してきたと言えるでしょう。

現代音楽のラップには、歌詞に即して韻を踏む言葉が選ばれ、臨機応変かつスピーディーに展開される形式美があります。

華麗な洒落ごとが展開されるラップもまた文化の粋であると思えます。

■ 表① 新板喜尽寿古六の構成

まづしきにめぐみの木	金のなる木は元しやうじ木 上り			家内むつまし木
忠義づとめの木	ぢひふか木	かせ木	かんにんつよ木	かうりがしの木
しんぼうつよ木	りち木	まぶどのよ木	ゆだんなの木	あさを木
たしなみよ木	目のさめよき人に成る木	兄弟むつまし木	いさぎよ木	ついへのな木
なまけた木	人にまけぬ木	みへ出した木	なまけた木	ちへのな木
気ままたん木	うは木	なまい木	初春は御目出た木 振出し ①いさぎよ木 ②たしなみよ木 ③なまけた木 ④ついへのな木 ⑤うは木 ⑥あさを木	



■ 表② 英語・中国語・ドイツ語の駄洒落(例)

言語	駄洒落の事例	解説
英語	Q: What do you call the flower on your face? (顔の中にある花って何でしょう?) A: Tulips! (チューリップです=Two lips)	ツーリップス(二つの唇) = チューリップ(花)です。
中国語	无微不至 wú wēi bù zhī(いたらざるところなし) ⇒无胃不治 wú wèi bù zhi(治らぬ胃はない)胃腸病院。	類似した発音の言葉がCMなどに利用されています。 ※「相原茂の中国語閑談」を参考にしました。 http://aiharamao.seesaa.net/article/428312897.html
ドイツ語	ベートーヴェンのカノン 『Schwenke dich ohne Schwänke(ふざげずに向きを変えろ), WoO 187』	1824年、ダジャレ好きのベートーヴェンが、ハンブルクの作曲家シュヴェンケ(Schwencke)の名前をもじって作ったカノン。「向きを変える、ふざげる(Schwänke)、なしに揺れる(Schwenke dich)」という意味。

思考を膨らませ、同音異義語を組み合わせた尽くし双六



52マスの月尽し双六

今回は圧巻の52マスの月尽し双六です。登場するのは、老若男女の江戸庶民116名(男77名・女39名、子供18名含む)。その他小動物(犬・猫・狐各2匹)。

「つき」の語呂合わせのバリエーションは、月・突き・付き・就き・撞き・着き…と豊富にあり、この双六の面白さと奥深さを醸し出しています(表①)。

江戸時代には多くの尽くし双六が発行されています(表②)。尽くしとは同類のものを全て列挙することです。思考を膨らませて同音異義語を探し、それを絵双六にして仲間内で楽しみ合う。何と粋な世界でしょうか！

駄洒落好きな芳幾

作者の一恵齋(落合) 芳幾(1833~1904)は、月岡芳年とともに、幕末を代表する浮世絵師・歌川国芳の門下です。残酷な血みどろ絵を競作するなど、

良きライバルとして人気を二分しました。また、芳幾は駄洒落を得意とし、洒落幾と呼ばれていました。周囲も時に気に障ることもあるものの、駄洒落の連発を浴びせられ、果ては笑わずにはおられなかったようです。

失意と貧困を経験して

このような芳幾(本名:幾次郎)ですが、絵の才能はあったものの、幼少期から大変苦労をしています。引手茶屋を営んでいた両親は絵仕事を道楽商売とみなして幾次郎は質屋へ奉公に出され、そこで酷いいじめを受け、伊勢神宮へ抜け参りに脱走してしまいます。

両親はついに幾次郎の夢である絵描きへの道を認め、歌川国芳に弟子入りさせます。独立後は実家の職業柄、花魁の打掛を多く描いていました。しかし、安政2年の大地震で芳幾は妊娠中の妻を亡くしてしまいます。この頃、父の借金返済にも追われ、失意と貧困の極みを味わいます。

芳幾の世相観察力 新聞事業に活かす

明治に入って、岩倉使節団の一員として洋行した福地源一郎が、現地で新聞事業が盛んであることを目にして、その必要性を説く手紙を国内の役人に送ったのが事の始まりで、芳幾、条野採菊、西田伝助らと明治5年に東京日々新聞(現:毎日新聞)を発行しました。

芳幾は印刷等工場の担当で、後に、東京日日新聞大錦と題した錦絵新聞を刊行しました。この後、色々な騒動が起こり、新聞事業から撤退しますが、絵双六や錦絵で培った世相観察力は新聞人としても活かされたものと思います。

江戸時代は子供天国

双六の構成を見てみましょう。振出しは四人の振り袖娘の羽根つき姿。背景は正月を彩る赤白緑の風景に松の植木も見えます。以降、庶民の暮らしの泣き笑いが次々と登場します。

上りは満月の宴を張る若侍と二人の花魁

です。当時の庶民の憧れのシーンでしょう

う。この双六では子供が活き活きと動き回っているところがいいですね。当時の江戸を見た動物学者のエドワード・モースは、「世界中で日本ほど、子供が親切に取り扱われ、そして子供のために深い注意が払われる国はない」と書いています。

あの頃の江戸に住んでみたい!

翻って現代、少子化対策が進まず、江戸時代の子供の幸福度と比べると、差もありません。しかし、専業主婦に頼る時代に戻ることはできません。政策の優先順位を防衛力強化の上に位置付けるくらいの政治決断こそ異次元の政策と言えましょう。「あゝ、あの頃の江戸に住んでみたい!」と思うのは私だけではないでしょう。

■表② 江戸時代の尽くし双六(例)

双六名	制作年代	解説
うめつしおれねほごころく 梅盡吉例雙六	明和2年(1765)	梅の異名「好文木」を振出しに梅の木和中散、梅花香、古梅園などの梅尽くしの29コマ。
たまつしおれねほごころく 玉尽年玉壽吉六	弘化4年(1847)	悪玉、白玉、そろばん玉、大目玉など玉尽くしの27コマ。上りはお年玉。
しよげいつくしおれねほごころく 諸藝盡し出世壽語録	安政3年(1856)	三曲合(琴・胡弓・尺八)を振出しに、馬術、書画、能などの芸尽くしの38コマ。
しんぼんちやうしおれねほごころく 新版餅盡愛度雙六	安政4年(1857)	鐘(やり)餅を振出しに、亭主餅、あんころ餅、提灯餅など餅尽くしの37コマ。
とりつくしおれねほごころく 鳥盡初音壽語六	江戸後期	婿とり、客とり、甥とり、煤とりなどとり尽くしの28コマ。上りは御代とり。

※芳幾の生立ちは ARTISTIAN (<http://artistian.net/about>) を参考にした。



■ 月尽面白壽語禄の主なマスの説明

マスの※NO	言葉	解説
1:かなぼう月	金棒突き	鉄の輪を付けた金棒を地面に突き鳴らしながら行列を先導する役。江戸時代の吉原おいらん道中にも登場した。
2:舟つき	舟着き	大川(隅田川)の舟着場近くでの水垢離風景。大山詣での「奉納大願成就大山石尊大権現」の幟が見られる。
3:かん月	癩付き	感情がはげしく、すぐかっとなる気質。癩癩(カンジャク)。
4:正札月	正札月	掛値なしの正しい値段を書いて商品につけた札。呉服の越後屋が江戸で始めた新しい商法。
5:座が月	座が付き	目的をもった集まり。ここでは吉祥の祝いの集まりだと思われる。
6:狐つき	狐憑き	狐の霊が人に取り憑いて異常な状態を現出させること。憑依。
7:きよく月	曲突き	杵が空中を回ったり、大きな杵を振り餅をまとめたりする戸前の餅つき芸。
8:ざつき	座付	芸者・芸人などが宴席に出て最初に奏する祝儀の曲。お座付き。

■ 表① 月尽面白壽語禄の構成

高つき	卯月	おち月	まん月 上り			ねんし月	くりつき	ぢやれ月
文月	ぢさん月	えんつき				さ月	※8 ざつき	ほう月
はりこの月	かみ月	まり月	※7 きよく月	おきやく月	やみ月	ぶらつき	うそつき	すい月
ごた月	※3 かん月	まご月	※4 正札月	ごろ月	※5 座が月	※6 狐つき	だき月	おもい月
かねつき	つえツキ	うみ月	とび月		※2 舟つき	ありつき	ぬらつき	おつき
さか月	※1 かなぼう月	寝つき	羽根つき 振出し			おいつき	つえつき	かんが月
いて月	あさ月	三日月	①くりつき	②三日月	③きが月	④寝月	きがつき	もち月
			⑤あさ月	⑥かなぼう月			ほう月	

●吉田 修(よしだおさむ) 1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文文化教育学会、NPO法人写楽の会の会員を務める。かたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。

▲公式HP
<http://www.sugokunet/> (常設展/絵双六にみる職業観の変遷特集/大正口マン双六特集など)

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第十一回①

業平の様々な愛を描いた 伊勢物語の双六は恋の見本市

築地双六館館長 吉田 修

伊勢物語は恋の見本市

伊勢物語は、平安時代初期に実在した貴族である在原業平を思わせる男を主人公とした和歌にまつわる短編物語集です。創成期の

仮名文学の代表作であり、源氏物語や古今和歌集とともに同時代の三大文学といえることができます。江戸時代の風流人にとっては、会得すべき文学的素養であったと思います。

定家本によれば全百二十五段からなり、その内容は男女の恋愛を中心に、親子愛、主従愛、友情、社交生活など多岐にわたります。歌人の俵万智さんによれば、「伊

勢物語は恋の見本市」だそうです。「それならば読まなくちゃ！」と思っていただけ読者も多いことでしょう。

作者不詳 永遠の謎解き問題

伊勢物語では、主人公の名は明記されず、多くが「むかし、男（ありけり）」の冒頭句で始まります。作者については諸説あります。本双六では、上りのマスでこのように説明されています。

「伊勢は七条の後 温子につかへし 官女なり 後に 寛平法皇にめされて行明親王をうむ故に伊勢の御息所といふこのもの かたるは 業平みづから 記しおきた

業平が書いたものに女流歌人の伊勢が筆を加えて成り立ったものとしていますが、真相は如何に？ この謎解きは永遠の課題でありましょう。

物語・歌・画を双六で 優雅に遊ぶ

双六の構成を見てみましょう(表①)。伊勢物語の各段から抜粋した情況が32のマスに描かれています(※表②)。物語の各場面をイメージして画に仕上げていくことは、江戸の浮世絵師の得意技でした。面白いのは19のマスに作者・浮世絵師の一文が添えられていることです。歌と画を補足する役割を果たしています。物語と歌と画の世界に浸りきる双六遊びこそ、江戸文化の極致であったといえます。

業平と斎宮の逢瀬

伊勢物語の核心ともいえるべき第69段「宇佐(狩り)の使」歌を筆者なりに解説します。

この段は、業平が伊勢に下ったときに、斎宮と密通してしまします。斎宮とは生涯独身で神に仕える役職です。そのような立場の人と恋仲になることは大スキャンダルです。以下は、翌朝、斎宮が

送った歌とそれに対する業平の返歌です。

【斎宮の上の句(本双六掲載の歌)】
君や来し我や行きけむおもほえず
夢か現かねてかさめてか

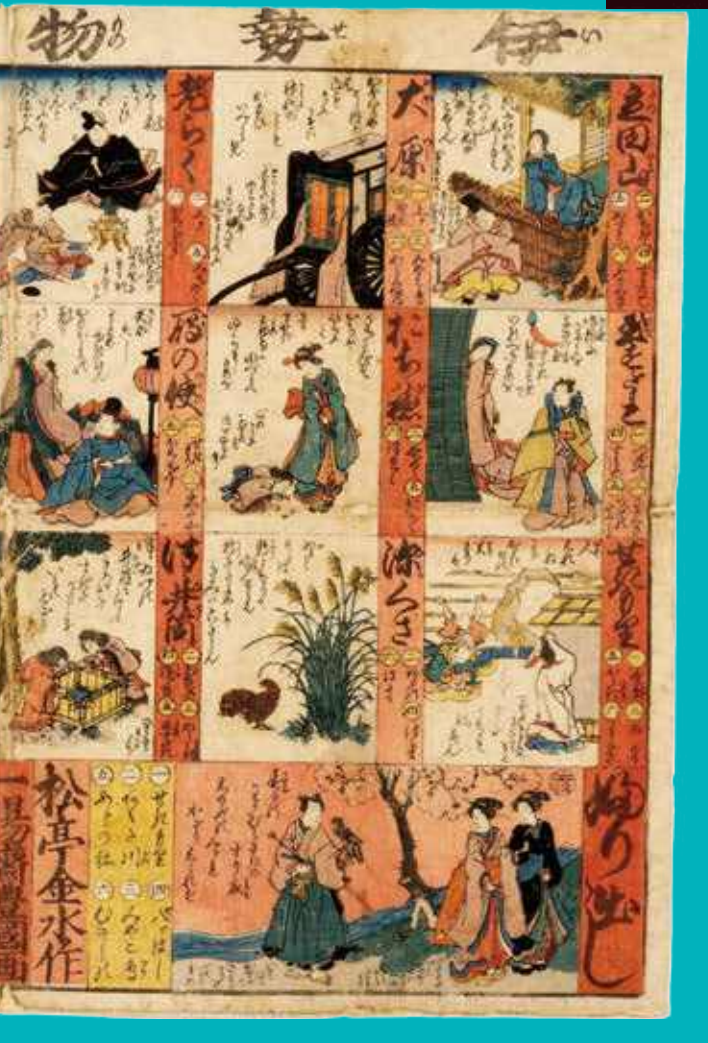
【歌の訳】昨夜のこと あなたがいらしたのか 私が出向いたのか覚えていません。夢か現実か 寝ていたときか目覚めていたときかも。あ・い・た・い。

【業平の下の句(定家本より引用)】
かきくらす心の闇にまどひにき夢うつつとはこよひ定めよ

【歌の訳】混乱した私の心は闇の中に迷ってしまいました。夢か現かは今夜いらしてはつきりとお決めください。待っているよ。

日本は様式美に満ちている

様式美とは「ある時代・民族・流派などの芸術作品や建築物の表現形式にみられる特徴的・類型的な美」です。伊勢物語の説話、挿入される歌、双六に展開されるマス、いずれも日本古来の様式美です。能や狂言や歌舞伎と同様に、決まりごとに歴史的美的安心観を見出すことができます。多くの様式美に浸れる美しい日本のあなたは、し・あ・わ・せですよ！





▶在原業平は晩年、京都郊外の大原野(おおはらの)小塩(おしお)にある十輪寺(じゅうりんじ)(写真①)に隠棲しました。業平の墓(写真②)と歌にも詠まれた塩竈(しおがま)の跡(写真③)。業平が難波の海から海水を運ばせ、ここで塩を焼いて立ち上る煙の風情を楽しんだといわれています。※写真は2023年4月28日に筆者撮影。

■表① 伊勢物語業平壽娛六の構成

②⑥塩竈	②⑦住みよし	②⑧から紅	②⑩上り			②⑨老いらく	③⑩大原	③⑪立山山
①⑦ほととぎす	①⑧ほたる	①⑨ゆく水	②⑩はな橘	②⑪つくま	②⑫つげの小櫛	②⑬飯(狩り)の使い	②⑭おち穂	②⑮玉すだれ
①⑧むさしの	①⑨九十九髪	①⑩みちのく	①⑪ふじのね	①⑫みたらし川	①⑬若くさ	①⑭つつ井筒	①⑮深くさ	①⑯せきもり
①⑦かたみ	①⑥みやこどり	①⑤むらさき	①④雨ぐも	①③八つはし	①②あくたがわ	①振り出し		
						①せきもり	②あくたがわ	
						③みやこどり	④八つはし	
						⑤ふじのね	⑥むさしの	

※表②「各マスにおける伊勢物語の段数と歌」は本QRコードからダウンロードしてください。



五・七・五の発句によって、 五十三次の宿場イメージを拡大

東海道五十三次という 様式美

東海道には江戸から京都までの間に五十三の宿場があり、五十三回の継ぎ替えをすることから俗に「五十三次」と呼ばれるようになりました。

東海道五十三次は江戸庶民が共通して持った様式美、つまり、イメージのフォーモットです。そこに発句(俳句)と双六のフォーモットを重ね合わせると、皆が同時に豊かな道中風景を共有できたことでしょう。この双六は好事家にはたまらない逸品です。多種多様な歴史的なフォーモットが積み重なって今日の日本文化があります。

俳諧と発句と俳句の関係性

俳諧は和歌の連歌を言葉遊びの遊戯性を追求しながら、参加者が次々につなげて楽しむ文芸遊びです。俳諧は趣味として楽しむ庶民がいる一方で、武家や

豪商や豪農などのスポンサーが付き、俳諧のみを職業とするプロフェシヨナルが生れました。

俳諧師の松尾芭蕉です。発句は、連歌の発端となる五・七・五の第一句のことです。松尾芭蕉の登場により冒頭の発句の独立性が高まり、発句のみを鑑賞することも多く行われるようになりました。

明治時代、正岡子規が連歌の発句を切り出したものを「俳句」という呼び名で更に新しい文芸として発展させました。

俳句という 言葉誕生以前の双六

本双六は明治初期の制作と思われる。発句の連句を宿場ごとに掲載するという趣向に満ちた双六ですが、俳句という言葉は出てきません。俳句という新文芸の概念が誕生する直前の双六です。俳句の進化の歴史の一面面を表した貴重な双六といえます。

双六の構成

振り出しの日本橋から大津まで、各宿場の風景に2〜3の句が添えられ、振り出しの日本橋では6つ、京には9つの句があげられています(表①②)。宿場間の里程も表示されています。

上りの京では、数の余りがあるとながれませんが、「一ツ余れば大津へ戻ル、二ツ 草津へ戻ル、三ツ 石部へ戻ル、四ツ 水口へ戻ル、五ツ 宮へ戻ル」との厳しいルールです(※7)。各マスの絵もよく描き込まれています。平塚宿の花水川に向こうにある高麗山の風景、宮宿の熱田神宮と七里の渡しなどです。発句には鞠子宿のどろろ汁、桑名宿の蛤などの名産も登場します。見て、読んで、空想を広げる道中双六には江戸庶民の遊び心が溢れています。

甦る日本橋

道中双六の振り出しの多くは日本橋です。

日本橋川
にかかる橋
と仰ぎ見る
江戸の空は

長年の名物でしたが、日本橋から空が消えたのは、東京オリンピック前年の昭和39年のことです(写真参照)。以来、首都高の下に置かれた日本橋ですが、遂に77年ぶりに日本橋から青空を仰ぐためのリニューアル工事が開始されました。2040年度の完成を目指しているそうです(※2)。

日本橋 喜寿の祝いの
江戸の空 (双六子)

■表② 主なマスの俳句例

宿場	俳句(筆者の推定による解説)
※1日本橋(振り出し)	出た程に 入る船のあり 江戸の春 (其模)
※2平塚	羽子板や 魚買出しの 籠の上 (所項)
※3吉原	六月や 笠に着ている 不二の雲(子儀)
※4鞠子	どろろ汁 寒さに梅の みのりかな(鳥嶋)
※5岡部	不二川に 仮橋かけて 苗代田(外山)
※6舞坂	三日月の 入江に消へて 初嵐(二桃)
※7三条大橋(上り)	京にきて 山笑う 日を 覚えけり(成柿)

▼双六の概要 東海道五十三次発句双六

撰：喜國葺吳城 画：立川斎國郷 板：木屋宗次郎 明治初頃 サイズ(cm)：縦48×横71



■ 表① 東海道五十三次発句双六の構成

由比	興津	江尻	府中	鞠子 ※4	岡部 ※5	藤枝	金谷	島田	日坂	掛川
蒲原	桑名	四日市	石薬師	庄野	亀山	関	坂下	土山		袋井
吉原 ※3		※7	京 三条大橋(上り) ※7					大津	水口	見付
原	宮							草津	石部	浜松
沼津	鳴海							舞坂 ※6		
三島		ちりゅう池鯉鮒	岡崎	藤川	赤坂	御油	吉田	二川	白須賀	新居
箱根	小田原	大磯	平塚 ※2	藤沢	戸塚	保土ヶ谷	神奈川	川崎	品川	日本橋(振出し) ※1



●吉田 修よしだあさむ 1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文文化教育学会、NPO 法人写楽の会の会員を務める。筑地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組み。

▼公式HP <http://www.sugokurui.net/> (常設展／絵双六にみる職業観の変遷特集／大正ロマン双六特集など)

▲現在の首都高の下にある日本橋と里程標。

※1～6のマスにある俳句は表②で紹介。

#1 写真は2023年6月26日に筆者撮影。#2 首都高速道路株式会社「未来の日本橋」<https://www.shutoko.jp/ss/nihonbashi-tikaka/>

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第十二回①

粹な夢を実現させた 三都の名妓女子会

築地双六館館長 吉田 修

江戸文芸の最高のモチーフ 高尾太夫

高尾（高雄）太夫は、吉原で最も有名な遊女です。吉原の妓楼三浦屋に伝わる大名跡で、代々襲名されました。何代目まで続いたかは諸説あり、6代説・7代説・9代説・11代説などがありますが、本双六は13代説に則っています。各代の高尾太夫は江戸時代のアーティストの創作意欲を掻き立てる素材であり、浮世草子・浮世絵・歌舞伎・浄瑠璃・狂言・落語等様々な作品に登場しています。

万治高尾のエピソード

特に万治高尾（2代目とも3代目ともいわれている）は、絶世の美女である上、琴・三味線の名手であり、和歌をよくし、佐理・行成・道風ばりの能筆であったといわれ、極めて高い教養を持つ名妓でした。

彼女は下野国の塩原塩釜村のことで、吉原の三浦屋に引き取られました。やがて、名声が広まり、「君は今 駒形あたり ホトトギス」と詠んだ句が残っています。

仙台藩主伊達綱宗侯は高尾太夫を寵愛し、衣装と装飾品を着用し

た彼女の体重と同じだけの重さに相当する三千両を積んで彼女を身請けしました。しかし、彼女には既に意中の人がおり、操を立てて

綱宗侯の意には従わなかったため、万治2年12月、綱宗侯の怒りを買った高尾太夫は大川（隅田川）の三又（現在の日本橋中洲付近）の船中にて吊るし切りにされ、その遺体が北新堀河岸（現在の豊海橋付近）に流れ着き、当地に庵を構えていた僧侶がその遺体を手厚く葬りました。不幸な最期を遂げた二代目高尾太夫に人々の同情が集まり、高尾稲荷社が建てられました（※1）（写真①②③）。

高尾太夫は籠の鳥

本双六の構成を見てみましょう（表①）。ふり出しは初代の高尾（表①）。寛永年間に出版された吉原遊女の評判記である「あづま物語」から引用し、初代高尾などについて言及しています。各代の高尾は特定

しがたく、いずれも三浦屋の外には出られなかったと書かれています。高尾は哀しい籠の鳥だったのです。なお、本双六のタイトルにある紅葉は、万治高尾の「寒風にもろくも朽つる紅葉かな」の一

句に依るものではないかと思えます。

三都の名妓の粹で 傳（はかな）い夢遊び

各マスには各代の高尾に関わる話や石井恒右衛門、鴻池善右衛門、池野屋儀兵などの相手客のことが描かれています。

上りには以下のエピソードが描かれています。ある時高尾（何代目かは不明）は、籠の鳥であることを悔しがり、一計を案じます。京都名妓の吉野、大阪の名妓高円たかまろと粹な連絡をとろうとします。高尾の飲んだ盃と酒を持たせて使いを出し、京都島原の吉野太夫に贈り、吉野太夫もこの盃で酒を飲んだ後、大坂の名妓高円に贈りました。さらに高円はこの盃を高尾に贈り返したといえます。かくて、高尾太夫の壮大な望みは叶い、この双六の上り（※）にしたということです。

江戸双六の最高到達点

各代の高尾太夫は、江戸庶民の夢であり、憧れでした。そのエピソードは史実と虚説がない交ぜになって、多種多様な舞台で演じられました。絵双六には英雄や偉人

が多く登場しますが、高尾太夫もそれに匹敵するほどの魅力的な双六のモチーフです。それはこの作品の悲哀に満ちたストーリー、文字数の多さ、彫りの精緻さにも表れています。令和の時代であっても強くイメージが喚起される素晴らしいアートです。江戸双六の最高到達点と言っても過言ではありません。

■ 表① 高雄紅葉十三代双六の構成

三代目 万治 高尾芸	三代目客 佐々木原	上 <small>(※)</small> 吉原奇談 よしの たかお たかまど しんぞう	二代目客 千代の君	二代目 妙心の芸
五代目 縁生秋澄之霊	五代目	十一代目	四代目	四代目 愛士 石井恒右衛門
七代目	七代目 鎌田与平	十三代目	六代目 鴻池善右衛門	六代目
九代目客 池野屋儀兵	九代目	ふり出し	八代目	八代目客 蔵前十八大通の一人 坂倉文魚

※1高尾稲荷神社公式HP (<https://takaoinari.tokyo/>)を参考にした。但し、この逸話は巻説とされている。

たかもみじゅうさんだいすごろく
 ▼双六の概要 高雄紅葉十三代双六

福辺家千生/稿 紅亭木翁/校 古流斎清国/画 木屋宗次郎/版 文久元年(1861年) サイズ(cm):縦72.5×横73.0



▶東京都中央区箱崎にある
高尾稲荷神社(写真①)

▼高尾稲荷神社の由来や万治高尾の画が描かれたプレート
(写真③)



※表①の振出しと上(あがり)の内容は下記QRコード(<https://sugoroku.net/202308.pdf>)を参照してください。



▼天井画の彩雲は池田葉月さんの作品(写真②)



※写真は2023年6月17日に筆者撮影。

富士山の登拝ルートは往路三泊 女性の入山禁止に挑戦した高山たつ

富士山への道しるべ双六

本双六は、日本橋をふり出しに、甲州街道をたどり、大月、吉田を経由する富士山道を通って、北口本宮富士浅間神社(写真①②)に至る道中を描いています。③)に上る道中を描いています。上りは富士山です(表①)。このコースは、万延元年に出版された「不二山道知留邊」にも紹介されており、江戸庶民の一般的な富士山への登拝ルートでした。マスにある泊の数からみると、神社までの往路で3泊する日程のようです。

富士登山ブームの火付け役

富士山は、633年頃に山岳修験道の開祖・役小角が登頂したとされています。それ以降、864(宝永4)年に2回の大きな噴火をしたこともあり、遥拝すべき存在でありました。

江戸時代も中期以降になると、富士講の指導者である長谷川角行や弟子の食行身録・村上光清らによって富士登山ブームが到来しました。身録は呪術による加持祈禱を否定し、正直と慈悲をもって勤労に励むことを信仰の原点と

し、その教えは江戸庶民の間に広がりました。

富士講と富士塚

富士講は「富士を拝み、富士山霊に帰依し心願を唱え、報恩感謝する」という教義のもとで、富士山信仰を行う組織のことです。御師の先導により、講の代表が富士山を参詣し、本宮富士浅間神社に参拝してからも富士八海巡りなどの修行を行っていました。御師は、信仰の指導者であり、同時に、富士講の講員に富士登山時の宿泊所を提供する役目を担っていました。かくして、富士講は次々と増え、「江戸八百八講」と呼ばれ、隆盛を極めました。

高山たつのバイオアティーク

霊山である富士山は、修験道の伝統として、女性の入山を禁止していました。その中で、天保3年に男装した高山たつ(高山右近の直系子孫)が女性初登頂を成し遂げました。彼女は富士山の登頂にあたり、こういう言葉を残しています。「私が頂上へ立つことで女の道が開けるのです。頂上に立った私の命が終わるとも、どうかお

連れください」と。今でいう男女共同参画社会を切り拓いたバイオアといえる女性だったのです。

外国人にも大人気

富士登山の歴史(表②)を見ると、開国間もないにも拘わらず、外国人が富士登山に意欲を燃やしていたことがわかります。

富士山の年間登山者数は、2019年度には23万5千名でしたが、そのうち2割程度が外国人だといわれています。世界遺産に登録されている富士山を一度、登ってみたいと思う気持ちはよくわかります。

芸術のモチーフとしての富士山

富士山は2013年に「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」の顕著で普遍的な価値として世界文化遺産に登録されました。その構成資産は、北口本宮富士浅間神社を含む富士山域、富士五湖、御師住宅、忍野八海、白糸ノ滝、美保松原など25箇所です。

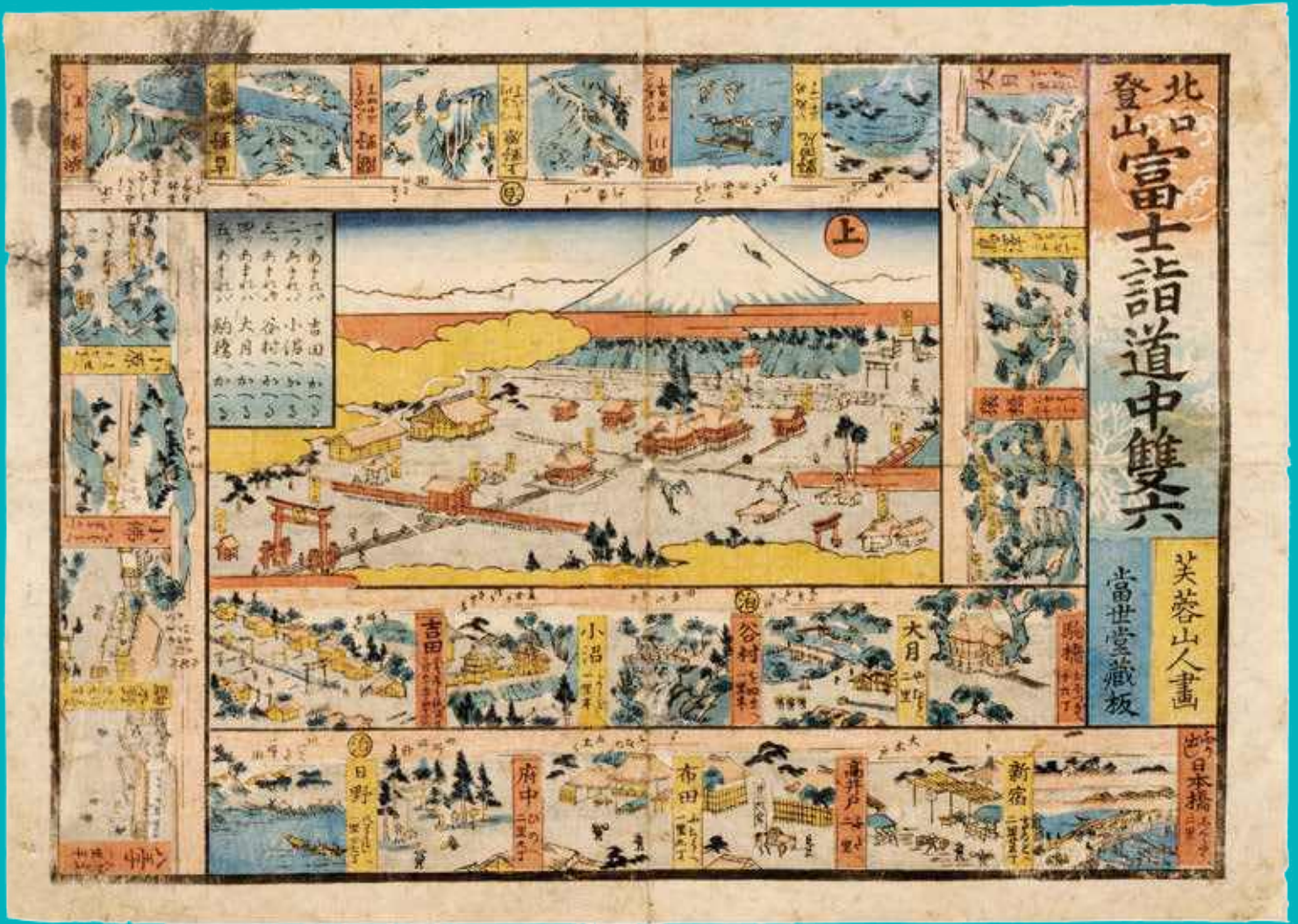
特に、富士山が芸術の源泉となっていることは、多くの作品によって例証されています。広重・北斎などの浮世絵、横山

大観・ゴッホ・モネ・セザンヌなどの絵画、竹取物語・古今和歌集・伊勢物語などの古典作品、松尾芭蕉・与謝蕪村などの俳句、夏目漱石・太宰治の文学作品、謡曲羽衣などの能…。

私たち日本人は、富士山という過去から連綿と続く偉大な芸術のモチーフを共有しています。こんな国は滅多にないでしょう。

■表① 北口登山富士詣道中雙六の構成

與瀬	吉野	關野	上野原・泊	鶴川	野田尻	犬目
小原	北口本宮富士浅間神社(上り)					鳥澤
小佛						猿橋
駒木野	吉田	小沼	谷村・泊	大月	駒橋	
八王子	日野・泊	府中	布田	高井戸	新宿	日本橋(ふり出し)



▲写真③ 壮麗な破風構造の諏訪拝殿(重要文化財)
 ※写真はすべて2023年4月19日に筆者撮影。



▲写真②「富士北口登山道本道」と刻まれた道標



▲写真① 北口本宮富士浅間神社(重要文化財)

●吉田 修(よしだおさむ) 1954年生まれ。
 島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文
 化教育学会、NPO法人写楽の会の会員を務
 めるかたわら、築地双六館館長として双六の
 蒐集・研究・制作に取り組む。
 ▼公式HP <http://www.sugoroku.net/>
 (常設展／絵双六にみる職業観の変遷特集／
 大正ロマン双六特集など)

年代	出来事
598年	聖徳太子が馬に乗り、富士山に登ったといふ伝説がある。
633年頃	山岳修験道の開祖・役小角が登頂したとされる。
江戸時代中期	富士講が広まり、庶民の間で富士登山が行われるようになる。各地に富士塚が築かれる。
1832年(天保3)	男装した高山たつが女性初登頂。
1860年(万延元)	初代イギリス駐日大使ラザフォード・オールコックが外国人初登頂。
1867年(慶応3)	イギリス人ハリ・パーク夫人が外国人女性初登頂。
1872年(明治5)	女人禁制が解かれる。
1891年(明治24)	ウォルター・ウエズトンが冬季富士登山(12月)。
1895年(明治28)	野中到が山頂で越冬気象観測を試みる。
1898年(明治31)	小泉八雲が御殿場から富士山へ。
1913年(大正2)	鶴見宣信歩兵大尉ら軍人6人が吉田口からスキー登山。
1923年(大正12)	皇太子裕仁親王(後の昭和天皇)が須走口より登頂。
1927年(昭和2)	男性2人と共に中村テルが冬季女性初登頂。
1929年(昭和4)	大月〜吉田(現在の富士山駅)間に富士山麓電気鉄道(現在の富士急行)が開業。
1964年(昭和39)	富士スバルラインが開通。
1969年(昭和44)	富士山スカイラインが開通。
2013年(平成25)	「富士山」信仰の対象と芸術の源泉として世界文化遺産に登録。

■表② 富士登山の歴史

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第十三回①

スケールの大きな義経の生涯を ダイナミックに描いた双六

築地双六館館長 吉田 修

双六の「ドラマ展開の一覧性」

本双六は源義経の生涯にわたる手柄を描いたものです。まさに義経の武勲ドラマを一気に読ませるものです。歌舞伎の名演目である義経千本桜は、都落ちした源義経と、生き延びていた平家の武将たちやそれに巻き込まれた者たちの悲劇を描いたストーリーですが、義経の生涯を一度に演じる演目ではありません。

本双六では武将義経の劇的な人生を描ききっています。このように、筆者は双六の特徴は「ドラマ展開の一覧性」にあると思います。

義経の戦いと恋愛を描く

ふり出しは、牛若丸が鞍馬山の天狗から兵法を教わり、五条橋で弁慶と出会うシーンです。ここから難敵とのバトルストーリーのスタートです(表①)。

まずは、鞍馬山を脱出した牛若丸は無礼な関ヶ原奥市を討ち、富士川の戦いで源氏の旗揚げを行い、栗津ヶ原と宇治川の合戦が続きます。その後、白川湛海、関ヶ原奥市、熊坂長範を倒し、伊勢三郎や

佐藤忠信を郎党に加えます。この間、義経の初恋の人である皆鶴姫と出会い、秀衡との対面に至ります。続いて、平家追討の戦いです。

一の谷、八艘飛が描かれています。最後は西国からみちのくへの逃避行です。西国を目指した大物浦の船出。堀川夜討では頼朝の刺客である土佐坊昌俊にそなえる義経と静御前のマスがあります。安宅閣では、関守の富樫泰家に勸進帳を読み上げる弁慶。そして、上りは義経王従の勇壮な船出です。

なお、本双六は、義経記(注)をベースに描かれていると思われませんが、史実と創作がない交ぜになっていることに留意する必要があります。双六はエンターテインメントツールなのです。

生涯移動距離第5位

双六を見てもわかるように、義経の移動距離は半端ではありません。奥州平泉において、わずか31歳で生涯を終えるまで、京都・平泉・鎌倉・壇の浦・吉野・安宅関そして再び平泉に移動します。その距離はいかほどであったのでしょうか? 表の「偉人の生涯移動距離ベスト5」をご覧ください

(表②)。義経は第5位にランクされています。「情報量は移動距離の二乗に比例する」という言葉があります。

そして、情報量は発想の豊かさにも直結します。ランキングを見るところにおおいに頷けます。龍馬の日本の国家構想、伊能忠敬の科学の探求、一茶の創作のクオリティ、家康の平和と統治の実現、義経の新発想の戦術。若者よ、おおいに歩き、冒険をしよう!

義経の足跡を辿る

義経の強靱な肉体と戦術思考があれば、現代において、プロアドベンチャーレーサーとしても成功したことでしょう!?

京都には義経のゆかりの地が多くあります。ほんの一部を紹介します(写真①~④)。鞍馬山の僧正ヶ谷に義経堂があります(④)。御堂の周りには多くの老杉がそびえ森厳な雰囲気醸し出しています。平泉の高館で最期を遂げた義経の魂は、この鞍馬山の義経堂へ戻り、遮那王尊として祀られています。参道から少し離れたところにある義経堂は何か寂しそうです。ありました。

・義経堂女いのれりみちのくの
高館に君ありと告げまし
(与謝野晶子)

・少年の義経のこともいめ(＊)の
ごとき 僧正谷にわれの汗垂る
(斎藤茂吉)

＊万葉集の世界では夢のことを「いめ」と発音する。

(注) 義経記は、源義経とその主従を中心に書いた作者不詳の軍記物語。全8巻。南北朝時代から室町時代初期に成立し、後世の多くの文学作品に影響を与え、今日の義経やその周辺の人物のイメージの多くは「義経記」に準拠している。

■表② 偉人の生涯移動距離ベスト5(日本人・船・騎乗等含む)

順位	人物	移動距離(km)
1	坂本龍馬	46,000
2	伊能忠敬	35,000
3	小林一茶	16,000
4	徳川家康	9,000
5	源義経	7,000

※YouTube チャンネル「歴史じっくり紀行」より ※諸説あり



▶双六の概要
義経一代勳功双六
よしつねいだいこんこうすわんくく
 一壽齋(歌川)芳員/画 神明前丸甚/版 安政3年(1856年) サイズ(㎝) 縦73.0×横50.0



▲①北区牛若町にある牛若丸誕生地の



▲②五条大橋の牛若丸と弁慶のモニュメント



▲③鞍馬寺仁王門



▲④鞍馬寺僧正ヶ谷の義経堂

※写真は2023年8月28日に筆者撮影。

■表① 双六の構成とマスの解説

安宅関	上		堀河夜討
八艘飛	一の谷	大捕物	忠信
皆鶴姫	宇治川	粟津ヶ原	富士川旗揚
関ヶ原與市うち	秀衡たいめん	熊坂長はん	伊勢三郎
白川港海	一壽齋芳員画	ふり出し 神明前 丸甚板	五条橋

●白川港海(港海坊):平安時代後期の剣術家で、鬼一法眼(きいちほうげん)の弟子。刺客として義経のもとにわかされ、京都五条で義経をおそうが、逆に殺される。●関ヶ原與市:鞍馬山を脱出した牛若丸が、美濃国の山中で関原与市に馬のはね水をかけられたのを憤り、与市を切つてその馬を奪う。●皆鶴姫:義経は鬼一法眼の兵法書を学ぶために、義理の娘皆鶴姫に近づき恋仲になる。義経は平清盛に気づかれ奥州へ逃げる。姫は義経の後追うも追いつけないと知り、難波池に身を投げる。●堀河夜討:文治元年10月、土佐坊昌俊が頼朝の義経追討の命を受け、京都六条堀川の館に夜討ちをかけたが、義経側に逆に討ち取られた事件。●伊勢三郎:伊勢義盛のことであり、源義経・四天王のひとり。忍者の祖とされる。●忠信(佐藤忠信):源義経・四天王のひとり。父は奥州藤原氏に仕えた佐藤基治。兄は佐藤継信。●熊坂長範:伝説上の盗賊。熊坂は、牛若丸の一行の旅宿を襲ったが、逆に斬り殺されたという。●藤原秀衡:秀衡は奥州を発展させ、朝廷から鎮守府将軍に任じられる。頼朝に追われている義経をかまう。

忠臣蔵のドラマチックな物語が渦巻き状に描かれて討ち入りに集結する双六

仮名手本忠臣蔵とは

仮名手本忠臣蔵は義経千本桜すかむらでんじゆてならいかかみや菅原伝授手習鑑と並ぶ歌舞伎や人形浄瑠璃における三大名作です。

しかし、その内容をご存じの方は少ないでしょう。赤穂浪士の討入は武家社会の大スキヤンダルであり、そのまま上演することは幕政批判になってしまいます。そこで、興行主や版元は、時代も人物も置き換えて脚色することで抜けどとしたのです。軍記物語である太平記になぞらえて、浅野内匠頭は塩冶判官高定、吉良上野介は高武蔵守師直、大石内蔵助はおおほしゆらのすけよしかな大星由良助義金に置き換えられています。

いろはも赤穂浪士も四十七

仮名手本とは江戸時代の寺子屋で使う文字の読み書きのお手本のこと。いろは歌も赤穂浪士の数も47であることの含意があります。そして、誰にでもわかりやすい仮名書きにし、忠臣の手本にしました。劇中では大星由良助の元となった大石内蔵助を暗示しています。このような機知に富んだ隠し

文字によって印象深い演目になったのです。

普段は見えない忠義の武士

仮名手本忠臣蔵は、以下の文章で始まります(写真①)。
 嘉肴有りといへども食せざれば其の味はひをしらずとは。国治まつてよき武士の忠も武勇もかくるゝに。たとへば星の昏見へず夜は乱れて頭はるゝ。例を爰に仮名書きの太平の代の政…。

つまり、こういう内容です。どんなにおいしいといわれるご馳走でも、実際に口にしなければそのおいしさはわからない。平和な世の中では立派な武士の忠義も武勇もこれと同じで、それらは話に聞いただけで実際に目にするものがなくなってしまう。だがそんな世の中でも、立派な忠義の武士は必ずいる。星は昼には見えないが夜になれば空にたくさん現われるのと同じように、普段は見えなくても忠義の武士は、あるべきところには確かに存在するのだ。そんな武士たちの話をわかり易いように仮名書きにして、これから説明することにしよう。

武士の忠義を後世に広く残そう

と、執筆意図を高く掲げて書かれたのが仮名手本忠臣蔵なのです。

歌舞伎の展開を30マスで再現

双六の展開と構成を見てみましょう(表①)。物語は全11段構成です。鎌倉鶴岡八幡宮での師直による判官の妻・顔世御前への横恋慕から、苦心の末に由良之助以下の四十七人に赤穂浪士が討ち入って本懐を遂げるまでを30のマスで描いています。

画師の歌川國安(1794～1832年)は、初代歌川豊国門下の三羽烏の一人です。役者絵のほか美人画や浮絵、合巻の挿絵、団扇絵、肉筆画を描きました。数ある忠臣蔵の双六の中で細かい筆遣いで特色を出しています。

忠臣蔵を辿る

忠臣蔵所縁の地を京都と東京に訪ねてみました(写真②～⑥)。京都山科の岩屋寺は大石内蔵助(良雄)閑居の地です。参道の脇には夏草に囲まれて「大石良雄君隠棲旧址」の碑があり、その周りには来訪者の思いがこもった三つの句碑がありました。

・元禄の 雪の深さや 里こもり

・ちりぬるは をとこのはなと
 うち入りそば
 ・塵ほどの 時雨に逢ふも
 京の寂
 京都山科の地は江戸元禄の時代色で染まっています。
 四十七士に合掌。

■表① 双六の構成

四段目 扇ヶ谷塩冶判官切腹/ 扇ヶ谷表門城明渡し	其二	其三	五段目 山崎街道鉄砲渡し/ 山崎街道二つ玉	其二	六段目 与市兵衛内勤平腹切	新板仮名手本忠臣蔵双六撰者 立川馬場外樓清澄 画師 歌川國安
其二	其二	幕	十段目 発足の櫛笄	其二	其二	
其三	九段目 山科閑居	上 其二(十一段目) 高家表門討入/高家奥庭泉水/ 高家炭部屋本懐/両国橋引揚	其二	其二	其三	
其二	八段目 道行旅路の嫁入	其三	其二	七段目 祇園一力茶屋	引幕	
三段目 足利館門前進物 足利館松の開刃備 足利館裏門	其二	二段目 桃井館力弥使者/ 松切り	其二	初段	ふり出し 大序 鶴ヶ岡社兜改め	

▼表①
「双六各段の説明(簡略版)」は本QRコードを参照してください。





▲①仮名手本忠臣蔵(竹田出雲本)



▲②一茶茶屋



▲③山科西野の岩屋寺



▲④大石良雄隠棲の地



▲新板仮名手本忠臣蔵双六の袋絵



▲⑤高輪泉岳寺



▲⑥四十七士の墓

●吉田 修(よしだおさむ) 1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文化教育学会、NPO法人写楽の会の会員を務めるかたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。
 ▶公式HP <http://www.sugoroku.net/>
 (常設展/絵双六にみる職業観の変遷特集/大正ロマン双六特集など)

男と女の織り成す大江戸絵双六シリーズ 第十四回①

養蚕をテーマに、絹糸づくりに関わる人々の姿と工程を示した双六

築地双六館館長 吉田 修

養蚕は古代中国の独占技術

本双六は養蚕がテーマです。絹の生産は紀元前3千年頃の中国で始まりました。少なくとも前漢の時代には蚕室での温育法や蚕卵の保管方法が確立しています。長い間、養蚕や絹の製法は他の地域に伝播しておらず、独占品として、中国から陸路・海路でインド、ペルシア方面に輸出されてきました。これがシルクロードの始まりです。古代ローマでも絹は上流階級の衣服として大変好まれました。シルクロードを通じてローマに運ばれた絹は、金と同じ価値があったといわれています。

百済王が機織り職人を派遣

日本書紀には応神天皇14年(283年)に百済の王が真毛津という機織り職人をわが国に派遣したと記されており、応神天皇16年には、養蚕と機織りの技術者を多数率いて百済の弓月君が帰化したとのことです。以降、律令制度下において、納税のための絹織物の生産が盛んになっていきましたが、品質は中国産にはるかに及ばず、生産は徐々に衰退していきました。

幕府の養蚕事業振興策

江戸幕府は品質改良と蚕種確保のため、代表的な産地であった旧結城藩を天領化し、生産条件の良い陸奥国伊達郡にも生産拠点を設けて蚕種の独占販売を試みましたが、これに対して仙台藩などの大藩や、上野国などの小藩が幕府からの圧力にもかかわらず養蚕事業に力を入れたため、地方でも生糸や絹織物の産地が形成されました。八代將軍徳川吉宗は、貿易赤字是正のため全国で生産を奨励し、「養蚕秘録」(写真①)等の出版の成果もあり、江戸時代中期には中国の絹と比肩する品質にまで向上しました。幕末の開港後は、絹が日本の重要な輸出品となりました(「養蚕の事業と技術の歴史」の詳細はQRコードを参照)。

中井閑民プロデュース 養蚕早わかり双六

本双六の制作者である中井閑民は、文化10年(1813年)に、現在の福島県伊達市梁川町に生まれ、「養蚕精義」を著すなど養蚕事業の専門家でした。本双六は福島県史学会役員の阿部俊夫氏によれば、「養蚕講の全員の要望を背

景に、閑民が江戸深川佐賀町の版元広岡屋に出版を依頼し、閑民作画の下絵を提供した。広岡屋は絵師・芳幾、彫師、摺師を差配し、出版した」と推測されています。旅籠屋と糸綿問屋のマスには「養蚕講」の看板があり、「奥州梁川 講元発起人 種仲間行司 中井半三郎(閑民)」と書かれています。閑民は養蚕講の発起人で、各地の蚕種行商人の定宿や取引先の糸綿問屋・呉服店に、この看板が掲げられていました。

双六の構成を見てみましょう(表①)。振出しは蚕の種取りの場面です。ここから出た目に従って36のマスを巡る、飛廻り双六になっています。種引き・糸取り・繭磨き・繭干し・煤払い・紙離し・桑苗取り・桑摘み・桑刻み・棚吊り・糸綿問屋・呉服等のマス目を経て、宮中へ繭と絹織物を献上して上りです。地方と天皇が絹によって繋がれていたのです。

絹織物一反を作るには約2700頭の蚕が98キロの桑の葉を食べて4900gの繭を作り、この繭から生糸900gが得られ、絹織物一反(700g)を織ることが出来るそうです。養蚕と

は何と手間暇のかかる仕事であったことでしょうか！
枠外左側には、「男女のいしやう、四季の差別なし、そ八画やうを美事にせんとの業なれハ、あやしむなかれ」と書かれています。男女の衣装は実態と異なり、芳幾による美的創作であることがわかります。このような絵師の心配りが絵双六への関心を高めたのです。

■表① 新版奥州本場養蚕手引寿語禄の構成

糸綿問屋	長者	上り			献上取次	呉服店
はたごや	いととり	まゆみがき	まゆほし	露おとし	蚕神祭	
桑苗取	わたかけ	まゆかき	手やすみ	蚕ひかし	には蚕	
ふな蚕	あたますき	ふそろひ	たか蚕	あら切	獅子蚕	よどみ蚕
紙はなし	はきおろし	煤払	糸びらおり蚕	棚つり	桑ざみ	桑つみ
水冷	たねひき	ふり出し かいこたねとり			わらだ干	たね手入



■写真①「養蚕秘録」

▶上垣守国(うえがきもりくに)が享和3年に
出石藩の支援を受けて出版。以降百年間
も養蚕の教科書として使用され続け、日本の
近代養蚕業の基礎を作った。



◀「養蚕の事業と技術
の歴史」は本QRコード
を参照してください。



歌舞伎や浄瑠璃の登場人物を扇面に描き 日本全国の各藩を飛び回る双六

日本の国と文化の一覧化

この双六が制作されたのは慶応3年、ペリー来航の14年後のことです。既に江戸庶民には、日本の国と文化を一覧化して観る眼が育っていました。それが木版多色刷りの双六によって大衆化され、津々浦々にまで普及していったことがわかります。

扇絵がモチーフ

この双六は扇絵がモチーフになっています。金銀などの下地の上に色彩豊かに描く扇絵は、平安時代末期から室町時代にかけて日本の特産品として中国に輸出されました。装飾された扇面を、屏風に貼り付けて鑑賞されることもありました。江戸時代には依屋彦達、宮崎友禅らが扇絵を得意とし、歌麿、豊国、葛飾北斎、河鍋曉斎等の浮世絵師も小画面の扇絵を描くようになりました。日本の美術表現の一つであり、双六にも多種多様な扇絵を取り入れたスタイリッシュなものが多くあります。

意匠を凝らした扇の絵地図

双六の構成を見てみましょう

■表① 国名と各マスの登場人物(筆者推定)

国名	登場人物	国名	登場人物	国名	登場人物
松前	五郎兵衛	美作	寺岡平右衛門	備前	?
陸奥	安倍貞任	伊豆	為とも(朝)	備中	うし若(牛若)
出羽	だっ(廻)妃のお百	駿河	富士太郎	備後	児島高のり
下野	佐野源左衛門	遠江	日本駄右衛門	安芸	(安芸守)清のり
上野	赤間源左衛門	三河	—	周防	三笠山伊達五郎
信濃	うづ平	尾張	?	長門	?
飛騨	内匠(たくみ)	伊賀	上野	紀伊	(紀伊国屋)文左衛門
美濃	十石峠	伊勢	稲富	淡路	—
近江	らん丸	志摩	—	讃岐	平の知盛
佐渡	きられ与三	山城 上り	深見太郎・英次郎・富貴三郎	阿波	十郎兵衛
越後	貝屋善吉	大和	忠のぶ(佐藤忠信)	土佐	又平
越中	源五郎	河内	佐々木源之助	伊予	?
能登	川越太郎 (河越太郎重頼)	和泉	?	豊前	おその
加賀	千代	摂津	古(小)平次	豊後	(鳥山)秋作
越前	大岡忠祐(忠相)	丹波	?	筑前	しらぬい
若狭	桃井(若狭之助)保近	丹後	小式部内侍	筑後	わしづ(鷲津)七郎
常陸	筑波茂右衛門	但馬	ふなつ(船津)	肥前	毛刺九右衛門
下総	乞目のでふ六(豊六)	因幡	白井ごん八	肥後	六三四(武藏)
上総	いづや与三郎	伯耆	?	日向	人丸
安房	里見義実	出雲	?	薩摩	値寿丸?
武蔵 ふりだし	孝子善吉	石見	重太郎	大隅	福寿海無量大師
甲斐	石和川	隠岐	児島三郎(高德)	対馬	乙ひめ(姫)
相模	弁天小僧	播磨	中宮の介(亮)	壱岐	和藤内

※ — は人物がないマス。?は判読できないか人物を特定できないもの

(表①)。松前藩から薩摩藩まで69の国名が、所縁の役者絵や景勝地と共に扇に描かれています。東西南北の方位が示された日本の中に位置付けられた全国の扇は、色鮮やかで浮世絵師独特の意匠が凝らされています。このまま額に入れて観賞するに値する作品です。

振出しは武蔵国

振出しは武蔵国です。河竹黙阿弥の世話物に登場する二人の人物の名が書かれています。一人は極彩色娘扇の朝比奈藤兵衛です。もう一人は、勧善懲悪

悪孝子誉の孝子善吉です。振出しには、サイコロの出目に従って、

一伊豆・二相模・三下野・四河内・五下総・六上野と、行き先のマスが示されています。指示のない目が出た場合はそのマスに留まり、次回の番に期します。これを飛廻り双六と呼びます。普段から歌舞伎や浄瑠璃を嗜んでいた江戸庶民によって、美しい扇を彩る人物を想像しながら双六遊びをすることは至福の時であったと思います。

名演目を巡る旅へ

各国のマスは読みどころ満

載です。北は歌舞伎・講談の大久保武蔵鏡の松前屋五郎兵衛です。そして、台頭霞彩幕の常陸の筑波茂右衛門、与話情浮名横櫛の上野の赤間源左衛門、能・鉢の木の下野の佐野源左衛門、義経千本桜の能登の川(河)越太郎、謡曲・富士太鼓をもとにした敵討高音鼓の駿河の富士太郎、昔語黄鳥墳の河内の佐々木源之助、人形浄瑠璃・傾城阿波鳴門の阿波の十郎兵衛、国性爺合戦の壱岐の和藤内などのマスが展開されます。コマを進めるよりも鼠窟の役どころに留まっていたい気持ち

▼双六の概要 大日本六十餘州一覽双六

一篤濟(いちおうさい)(豊原)國周(くにちか)/画 馬喰四丁目木屋宗次郎/版 山々亭有人/案 太田屋太吉/彫工 慶応3年(1867年) サイズ(cm):縦61.0×横73.0



になりますね。

上りは花立の三役者

上りには山城国の三名が控えています。深見太郎・富貴三郎・英次郎が馬簾付き四天(※)の扮装で花笠を被っており、豪華壮麗なマスになっていきます。上りに到達するには、摂津、近江、丹波いずれかのマスを通らなければなりません。畿内に入り、上方文化を充分堪能してから上りと参りましょう。

※馬簾付き四天…歌舞伎で工夫された独特の衣裳のこと。広い袖と短い裾が特徴。馬簾は相撲の化粧廻しのように裾を美しく飾る垂れ糸のこと。



▶大日本六十餘州一覽双六の袋絵・袋絵は艶やかな夫婦の旅立姿。絵師の國周(天保6年、明治33年)は、豊原周信の門人。後者絵の國周への評判を得、後世、小島烏水(ししまず)により、明治の写楽と称せられる。

▼「大日本六十餘州一覽双六の登場人物の解説」は本QRコードを参照してください。



●吉田 修(よしだおさむ) 1954年生まれ。島根県松江市出身。国際浮世絵学会、和文化教育学会、NPO法人写楽の会の会員を務めるかたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。
▶公式HP <http://www.sugoroku.net/>
(常設展/絵双六にみる職業観の変遷特集/大正ロマン双六特集など)

●今回で「男と女の織り成す大江戸絵双六」シリーズを終了します。現在、「大正浪漫双六」シリーズを準備中ですので、お楽しみに。

知の森で遊ぼう!

— 双六データベースを調べる・読み込む・楽しむ —

1 双六データベース(DB)にアクセス

●「双六ねっと」で検索 <https://www.sugoroku.net/>

双六ねっと

検索



●立命館大学アートリサーチセンターとの共同プロジェクト「築地双六館双六データベース」をクリック

2 画面構成を確認する

キーワード、作品名、
絵師、彫摺師、
出版年月などからも
検索できる

●21の分類項目から検索できる
●「双六」で検索するとデータ
ベース
全件(658件)のサムネールを
表示
できる

「閲覧」ボタンクリックで
検索対象のサムネールを
表示できる

3 検索例：分類語「女性・少女・女礼式」で検索

●110件のサムネール(縮小された見本画像)が表示されます。ここでは1画面に50件が表示されます。

例) 赤い囲み○の「男女一代婚禮壽語六(だんじょいちだいこんれいすごろく)」をクリックすると、選択した双六の詳細を確認することができます。



4

拡大して情報を得る



●NO:tkjSG047・慶応03 (1867)・落合 (一恵齋) 芳幾・板元: 辻岡屋文助などの情報が確認できます。

画像をクリックすると拡大したマスを見ることができます。



●「解説」をクリック

5

解説を読む

●内容・時代背景・マスの構成について解説されている。

男女一代婚禮壽語六の解説

時は幕末。男女の習い事、婚礼に至る行事や風俗が人生模様として生き活きと描かれている。全体26マスの振出しは、娘の御殿奉公である(双六の構成は下記参照)。江戸城や大名・旗本などの武家屋敷に御殿奉公として勤めた娘は、幕臣の出身だけでなく、商家や農家の娘もいた。行儀見習いなどを身につけ、箔をつけて、良縁を得る目的もあった。中には、出世の手段として美しい娘を自家の養女にして將軍家に奉公に出す旗本もいたという。上りは「三々九度」と「七五三」だ。二つもあるのは、おめでたくも珍しい双六といえよう。

マスに描かれている事で説明の必要なものについて以下に記す。

- ・里開き(さとびらき)・・・里帰りのこと。「かえり」ということばを忌みきらって、縁起のよい「ひらき」を用いた。
- ・釣台(つりだい)・・・人や物をのせて運ぶ台。板を台とし、両端をつり上げて前後からかつぐ。嫁入道具などをのせて運ぶのにも用いる。
- ・七所がね(七所鉄漿: ななとこがね)・・・江戸時代、結婚した女性が初めておはぐろの鉄漿をつけること。初鉄漿をする時に七軒をめぐって鉄漿をもらう風習があった。

※鉄漿(かね): 歯を黒く染めたり、衣を紺色などに染めたりするのに用いる、鉄を酸化させた液。

■男女一代婚禮壽語六の解説(マスの位置は適宜調整した)

世界的学術データベースに収録された 「双六コレクション」が一般公開!

赤間亮(立命館大学教授) **対談** 吉田修(築地双六館館長)

築地双六館館長・吉田修さん執筆の「季刊オビエオン・プラス」誌に連載され、好評を拍してきた「男と女の織り成す大江戸絵双六」シリーズの双六が、立命館大学アートリサーチセンターが推進する世界的な学術データベースに収録され、2024年11月3日(文化の日)に、「一般公開」が開始された。

これら双六は、吉田修さんの長年の収集・研究の集大成ともいえるもので、立命館大学アートリサーチセンター長の赤間亮文学部日本文学科教授との連携によって高精度画像のデータベース化が可能になった。収録された双六は、江戸時代から昭和30年代前半までの約500種、650枚に及ぶもので、各時代の習俗や民心を映す歴史絵巻ともいべき級の文化財である。このデータベースを広く一般公開するにあたっての意義について、吉田さんと赤間教授の熱のこもった対談が行われた。



唯一無二の双六データベースをつくり上げた築地双六館館長・吉田修さん(左)と立命館大学アート・リサーチセンター長の赤間亮先生

デジタル化しなければ 文化資源は失われる

吉田 ■ 赤間先生がセンター長をお務めのARCCは、芸術、芸能、技術、技能といった日本の貴重な文化資源を記録・保存するデジタルアーカイブとして屈指の実績をお持ちです。

世界に冠たるARCC設立のそもそもの経緯を教えてください。

赤間 ■ 立命館大学は実務型重視の「お硬い」学風といえるのですが、その一方、京都で何十年もやってきた大学ですから、文化芸術の方面でも、新しい展開を模索し続けてきた側面があるんです。

私がこの大学で職を得たのは1991年のことですが、すでに検討分科会で議論が行われていました。入職から5年ほど経つうちには私も分科会のメンバーに加えられる、いくつかのアイデアを提案しています。

でも、何をするにも先立つものが要るわけじゃないですか……。

吉田 ■ そこは「お硬い」大学だけに、議論は慎重であった、と?

赤間 ■ 40年にもわたる模索に転換点を与えたのは、1995年1月の阪神・淡路大震災でした。

あのとき私たちは、自然災害によって文化財が失われてしまう蓋然性を思い知らされたわけです。

私の師匠にあたる鳥越文蔵先生も、たまたま出張で大阪に来ていて、あの震災に遭われました。鳥越先生は当時、早稲田大学の演劇博物館館長。そうした有識者の方々が声を上げたこともあって、文化資源の保護研究に関して文科行政からまとまった予算がつくこととなりました。震災復興の意味合いから関西圏の大学には少し厚目の助成が下りて、建物などの設備投資に助成金の3分の2を充てられることがわかり、「よし、それならば」と手を挙げて具現化したのが、現在のARCCです。

この助成事業では、関西圏の大学として同志社大学と神戸の甲南大学の提案も採択されています。

研究機関だからこそ ここまでできる

吉田 ■ ARCCの収録史料に対する厳密かつ愛のある取り扱い方には、感心するやら驚かされるやら……私も、赤間先生のお手元に650枚の双六をお届けするにあたって、かなり大変な思いをしたものです。



築地双六館 双六データベースの検索トップ画面。立命館大学アートリサーチセンターがデジタル化し、同センターのデータベースシステムを利用している。
URLは https://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_tkjSG.php



赤間 ■ デジタルアーカイブという言葉が生まれたのは90年代半ばごろのことですが、あの震災があつて、デジタル技術で複製物をつくっておけば、災害で失われるかもしれない文化資源を未来につないでいけるという考え方が広まり、A R Cを立ち上げた1998年に一挙に動き出した感じですね。

今の施設が竣工するまでの1年間に、舞台写真や芸能関係資料のデジタル化から作業を始めました。なにしろここは京都です。古典芸能関係でも東映撮影所関係でも大量の写真が集まっていました。

ただ、このころのデジタルカメラはまだ低画素数だったし、われわれの目的は未来の研究に耐える品質の史料として残すことです。デジタル撮影にもソフトウェアでの後処理にも、研究者の観点で手間も時間もかけました。

吉田 ■ 芸能界の写真資料となると、著作権やら肖像権やらの問題もあつたのでは？

赤間 ■ 商業目的の一般企業なら、見る人からお金を取って収益化し、権利者にも分配しなけ

ればならないでしょうが、研究目的の私たちは違います。デジタル化したものを必ずしも公開しなくていい。

吉田 ■ なるほど。パブリックドメイン（知財権消滅）になつていないものは、不適切な商業流用を避けて一般非公開にする。でも遠い未来での研究に備えて、ひたすら高品位データとして蓄積に努めるといふことなんですね。

「秘すれば花」の京観世も参加している

吉田 ■ モーションキャプチャ（動体記録）の設備が充実している点もユニークですね。

赤間 ■ 無形文化財の保存がいちばん難しいことなんです。

吉田 ■ 芝居にしろ歌や踊りにしろ、およそ生の舞台で演じられるものは、そもそも「消え物」と呼ばれます。公演の記録映像は撮れても、演者の細かい所作までは映らない。モーションキャプチャで演者の動きを記録することには、大きな意味がありそうです。

赤間 ■ そこで、片山家能楽・京舞保存財団と学術協定を結んで、この取り組みを始めました。

別名「京観世」と呼ばれる片山

家は、能の大流・観世の京都における代表格。明治期に観世宗家の嗣子が絶えたとき、片山家から養子が入つて宗家を継いでいます。

吉田 ■ つまり、観阿弥世阿弥の血脈を受け継ぐ能のオーソリティというわけですね。そういう存在の協力を得られたのはすごいことだと思いますが……よく承知したものです。ね、「秘すれば花」のご家風でしょうに。

赤間 ■ 学術資料として未来に向けて保存はするが、隠さなければいけないことは隠しておける。研究機関としての姿勢を信用していただけたということでしょう。

なんでもかんでも公開する、あるいは、すべてを隠して死蔵する——そのどちらでもなくて、事前にしつかりと取り決めをして、活用すべきときは適切に活用していく。A R Cのアーカイブとは、そういうものです。

江戸の話し言葉をリアルに伝え残す双六

吉田 ■ そうした有形無形の貴重な文化資源と並んで、今回、私が集めた双六に着目された理由は？

赤間 ■ 研究者としての私の専門領域は、歌舞伎をはじめとする日



●赤間亮先生プロフィール

あかまりょう：国文学者。浮世絵研究者。立命館大学文学部日本文学科教授。同大学アート・リサーチセンター長。専門は日本近世文学・演劇、デジタル・アーカイブ学。

1960年、北海道出身。都留文科大学文学部国文学科卒業、早稲田大学大学院文学研究科芸術学（演劇）専攻博士後期課程単位取得満期退学。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館勤務を経て、1991年立命館大学に着任。1998年に歌舞伎学会奨励賞受賞。2008年に「演劇資料・浮世絵のデジタル化」の功績により上野五月記念日本文化研究奨励賞受賞。早い時期からデジタルアーカイブの研究に取り組み、文部科学省グローバル COE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」のリーダーとして、多数の研究プロジェクトを立ち上げる。デジタルアーカイブ技法「ARCモデル」の構築者として世界的に知られている。「浮世絵に関して、世界に散らばっている全作品のデータ化を完成させること」が目標。

ながら22年にご逝去されましたが、私とは長くメールのやりとりでお付き合いいただききました。

楊先生は変体仮名研究の専門家で、私には解説できない江戸期のくずし文字をデジタルカメラ写真で送信して読み下していたりなど大変お世話になったものです。

赤間 ■ 江戸期の双六を史料として見た場合、当時の庶民が使った言葉が書かれていた点が実に貴重なわけです。楊先生を追悼する意味でも、

吉田さんとは、ここで一仕事しなければ。そう考えました。

米国の名門大学図書館で「双六の面白さ」を知った

赤間 ■ 今でこそ浮世絵は、日本の伝統文化を代表する存在として世界的にも高い評価と人気を得ています。が、これが盛んに制作された当時の日本社会ではそういう認識がなかったために、幕末から

明治初期にかけて、すっかり国外流出してしまっただけで、現代の研究者である私たちは、自国の文物でありながら国内で原本を見ることができない状況に至ったわけです。

吉田 ■ 大英博物館やメトロポリタン美術館などに収蔵されたからこそ、原本が良好な状態で残ったともいえますね。

赤間 ■ そのとおりですが、勉強を続けるうちに、外国に行かないと研究が進まないと感じたときの忸怩たる思いは忘れられません。

海外流出した浮世絵を探して米国カリフォルニア大学バークレー校に赴いたとき、親しくなった図書館司書がいました。この人は古地図の専門家で、日本の古地図をアーカイブするプロジェクトを推進していました。で、この司書氏が「日本の双六は、古地図みたいだ」と言ったんですよ。

彼は地図そのものの研究者だから双六に着目していたわけではないけれど、そんな研究者が「双六は大事だ」と語った。

彼と交流を持つうちに、バークレー校のアジア図書館には双

六作品が140枚ほどあることを知りました。第二次大戦後の財閥解体の際に、三井財閥からまとめて買い取られたものらしい。

ただ、このときバークレーで見たものは、私が古巣の早稲田演劇博物館で見ていた人気役者のプロマイド的なものではなかった。もっと真面目な……といいますか、人生訓を述べた出世双六のような作品が多かったことを覚えていきます。

吉田 ■ そうそう。そういうところが双六の面白さなんです。

AIの出版はまだない 好きと想像力の世界

吉田 ■ 今回、双六コレクションをARCのアーカイブに登録する作業において、ご苦労された点がありますか？

赤間 ■ 苦労と言うなら、吉田さんのほうがよほど苦労されたんじゃないかもしれません。作品をデジタル画像にしたら並べただけではアーカイブ化する意味が薄いので、吉田さんには各作品の解説文をお願いしました。

吉田 ■ 確かにそれは大変な作業でしたが、提供する作品全点を見

本の古典演劇です。映像記録のな

かった時代の歌舞伎を今に伝える史料といえば浮世絵。浮世絵の手法がふんだんに用いられているのが江戸期の双六——吉田さんのご研究とつながりました。

「双六に関して質・量ともにのすごい仕事をしている人がいる」という話をかねて聞き及んでいましたので、連絡させていただきました。

いた次第です。

吉田 ■ 楊さんが交流を持たれたカナダ・カルガリー大学の楊曉捷教授の訃報に接したことも、吉田さんにお声がけするきっかけになりました。

吉田 ■ 楊先生は中国ご出身のカナダ人で日本中世文学研究者。京都の国際日本文化研究センターの客員研究員も務めた方です。残念



築地双六館 双六データベースの検索結果画面。それぞれの双六は、タイトル・絵師、発行元名などのほか、21の 카테고리分類からも検索可能。例えば「出世・競争・官位・キャリア・仕事・職業」の分類語で検索すれば、約200枚の双六画像を見ることができる。キーワードを入れると、該当する双六がサムネイル画像で一覧表示され、各サムネイルをクリックすると詳細情報に遷移する。詳細情報表示画面からは、2000pxの高解像度データをダウンロード可能。

直しながら解説文を書くうちに、双六というものの奥深さに改めて気づかされて、夢中になって取り組んでしまいました。

赤間 デジタル化作業の手間という点では、双六には紙面が大きいもののがかなりあって、これがなかなか大変。

吉田 写真をスキャナに並べていっぺんにデータ化するのはわげが違いますよね。

赤間 大きな紙面を一度に丸ごとスキャンできるスキャナはありませんから、高画素数のデジタルカメラを使って、紙面を何分割かして丹念に撮影していきましました。

紙面に書かれたくずし字が読めなかったら史料としての価値が台無しなので、文字の大きさによって分割数を変えなければなりません。史料素材の保存状況によっても細かく調整する必要がありますから、効率優先で一律的にピントや絞りを決めるわけにもいかない。それが650点ですからね。

吉田 聞いているだけで気が遠くなりますが、そういう作業をARCのスタッフさんたちは地

道に続けていらっしやるわけですね。

最近ではちよつとグダれば、デジタルアーカイブ制作の専門業者がたくさん出てきます。またデジタル画像といえば、今や合言葉は生成AI。こうした存在を活用すれば作業効率が上がるのであるのでは？

赤間 カメラで撮る場合でもスキャナを使う場合でも、大事なものは「未来の研究者たちが、その画像の何を見たいか」を想像しながらオペレートすること。素材の史料価値をいかにして引き出すかということでもあります。

その意味で、この作業に携わる人には、歴史学や美術の素養が欠かせないと思っています。少なくとも、こういう分野が好きで勉強し続けようという意欲がないとダメでしょう。

AIは、むしろこの作業者たちにとって、素養という面で援助し、場合によっては、デジタル化の方法についても、さまざま提案してくれるようになると思っています。いや、そのうちにはAI自体が人間並みの想像力も獲得してしまうのかな？





文化資源をデジタルアーカイブ化することの意義を熱く語る赤間先生。

**美的センスが不可欠
女性スタッフが大活躍**

吉田 このオペニオンプラスが女性を応援する雑誌だから言うわけではありませんが、想像力と美への興味関心が欠かせないというなら、文化資源のデジタルアーカイブ化というお仕事には、女性が向いているといえるのではありませんか？

赤間 そうかもしれません。確かにAR Cでこの作業に携わるスタッフには女性が多いんです。性別で採用を決めているわけでは一切ありませんが、結果として女性が多くなっているのは、女性のほうが美的なものに対する意識が一般的に高いせいでしょうね。

吉田 ファッションにしろメイクアップにしろ、女性は日常的にも美的センスを磨くことを要求されてきたわけだから、男性より意識が高いのも当然。これから先の若い世代では、そうとも限らないのでしょうか。

**仮想現実での発信で
一面的理解を打ち破る**

赤間 若い世代といえ、今の30代より下の人たちは、幼いこ

ろからデジタルに馴染んでいるわけです。遊びといえばテレビゲーム。コンピュータ画面の中の仮想空間で想像力を育んできたといえる。

私たちが取り組む文化資源のデジタルアーカイブ化も、単に記録を取るということを超えて、仮想空間で文化資源をリアルに再生するという意味があります。私たちのアーカイブはメタバース（仮想現実）なんです。

吉田 双六はそもそもゲームです。メタ空間で再生された古い時代の双六に触れて、想像の翼を拡げてほしいものです。

赤間 AR Cのアーカイブで公開された双六には、世界のどこからでもアクセスできます。いづれも高解像度・高精細。といって決して顕微鏡写真のようなものではありませんから、作品の息吹をリアルに感じてもらえるはず。

浮世絵作品の原本が海外に流出してしまったことを悔しいと言いましたが、その一方で、あの作品たちが海外に出たことで、日本文化が世界に広まった



事実も私は素直に認めています。海外流出した浮世絵は、外交官の役割を果たしてくれたのです。

本誌編集長 ■ フランス在住の連載寄稿者曰く、あの国では今や、ジャポニズムへの関心は遠い異国に対する物珍しさを超えて、敬意と憧憬の対象になっているとのこと。文化大国・おフランスをありがたがる世代に属する私などには、にわかには信じがたい逆転現象が起こっているようです。

赤間 ■ フランスは日本文化の受容が早かった国ですね。でも、同じヨーロッパでもイタリアやドイツはどうでしょうか？

今は極端な円安でインバウンド旅行者も激増していますが、ほとんどの外国人にとって日本文化とは、マンガとアニメ、スシとラーメンなんじゃないか。

そういう一面的な文化理解を、ぜひ変えていきたいものですね。

吉田 ■ アーカイブされた双六がその一助となるなら嬉しい限り。650枚分の解説文を書き綴った甲斐があります。



対談を終えて

築地双六館館長 吉田修

私が双六収集を始めたきっかけは、1995年頃に、青山の骨董市で昭和7年の「大東京名所めぐり」という素朴なカラーの大判双六に出会ったことです。この双六には、軍事教練所、三越デパート、堀部安兵衛の高田馬場など江戸の名残を残しつつ当時の名所が活写されており、面白いことに、裏面は企業のコマ割りタイアップ広告が掲載されていました。爾来、江戸時代、昭和の戦前までの双六を500枚程度収集しました。

さらにこの世界にのめり込んだのは、インターネット上での故・楊曉捷先生との出会いです。先生はネット上に「長谷雄草紙」（平安時代に貴族と鬼が双六勝負をする話）の論文を掲載しておられ、私はその感想をメールでお送りしたことから、長年にわたる交流が始まりました。

この度の立命館大学ARCとの提携の背景にも、楊先生の存

在があったことは赤間先生が述べられたとおりです。

双六の解説文を書くにあたっては、赤間先生から「できることから少しずつ」と言われていましたが、『歌舞伎登場人物事典』（白水社）、『くずし字用例辞典』（東京堂出版）、AIくずし字認識アプリ「みを（miwo）」、「くずし字DB検索」と首っ引きでのめり込んでしまいました。

特に、双六を構成するマスの名前と双六が作成された時代背

景については書き込んだつもりです。

これで多くの方が双六の関心を持ち、研究が進み、多くの論文などの発信が行われることを期待しています。

双六研究は、私にとってセカンドキャリアかつライフワーク。心の赴くままに始めた学習が、30年近くを経て、世界的文化資源アーカイブの一翼を担うまでになってしまいました。まさに「道楽ここに極まれり」の心境です。



●吉田修プロフィール

よしだおさむ：築地双六館館長。和文化教育学会、国際浮世絵学会、NPO法人写楽の会の会員を務めるかたわら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。1954年、島根県松江市出身。

● 著者プロフィール ●

よしだ おさむ
築地双六館館長 吉田 修

1954年生まれ。島根県松江市出身。
和文化教育学会、国際浮世絵学会、
NPO法人写楽の会の会員を務めるか
たわら、築地双六館館長として双六
の蒐集・研究・制作に取り組む。
2024年立命館大学アトリサーチセ
ンターと「双六デジタルファイル（
高精度画像）の運用に関する覚書」
を交し、約500種・650枚の江戸～昭和
次代の双六DBを公開する。



< 著者の双六史 >

- 1995年 ■ 青山の骨董市で昭和7年の「大東京名所めぐり」に出会う。蒐集の始まり。
2000年 ■ 「築地双六館」創設、HP「双六ねっと」を立ち上げる。
2000年 ■ 楊曉捷先生（元国際日本文化研究センターの客員研究員、
カナダ・カルガリー大学教授）と出会い、双六を通じて親交を深める。
2000年 ■ 城崎山山川温泉「銀花」にて「懐かしの絵双六」展を開催。
2001年 ■ インターネット博覧会（通称インパク）に「双六ネット」を出品。堺屋太一
経済企画庁長官より感謝状授かる。
2004年 ■ 「双六」（文溪堂）を世界一の双六コレクター山本正勝先生と共著で出版。
2004年 ■ 「和文化—日本の伝統を体感するQA事典」（明治図書：共著）を出版。
2004年 ■ リクルートワークス研究所の提言書の特別付録として「平成版諸職業就業
形態多様化双六」を作成。
2005年 ■ リクルートワークス研究所の提言書の特別付録として「プロフェッショナル
時代の到来 専門職業飛廻寿語録」を作成。
2006年 ■ 共同通信社の依頼により「2006年サッカーW杯日本代表絵すごろく」
を監修。
2008年 ■ HPの双六ライブラリーに特別展<大正ロマン双六>を増設。
2009年 ■ 「～古代海洋歴史浪漫～徐福明日葉発見大遠征双六」の作成。
2014年 ■ HPの双六ライブラリーに特別展<絵双六に見る職業観の変遷>を増設。
2014年 ■ 江戸時代（嘉永年間）の仙台の版元の双六版木を入手し、「源氏の武者
双六」と「東海道五十三次の道中双六」をアダチ伝統木版画技術保存
財団と協働して現代に再現。各紙で報道される。
2015年 ■ 「法政大学社会人大学院 知的創造能力学之道飛廻双六」を作成。
諏訪康雄先生の退職記念最終講義にて配布。
2016年 ■ 和文化教育学会で「双六にみる職業観・仕事観の変遷」について研究発表。
2016～2017年 ■ 月刊「清流」誌に「絵双六に魅せられて」を1年間連載。
2017年 ■ 上記連載記事を「平成最後の双六絵暦（カレンダー）」として配布。
2017～2020年 ■ 女性活躍応援誌「季刊オペニオン・プラス」に「時代の女性の
願いを映す双六」を連載。
2020年 ■ 上記連載記事の抜き刷り小冊子を配布。
2021～2024年 ■ 女性活躍応援誌「季刊オペニオン・プラス」に「男と女の織り
成す大江戸絵双六」を連載。
2024年 ■ NHK学園「古文書を読む講座 古文書基礎」修了。
「築地双六館双六コレクションのデジタル複製物およびデジタルファイル
の運用に関する覚書」を学校法人立命館の森島朋三理事長と締結する。
2025年～ ■ 女性活躍応援誌「季刊オペニオン・プラス」の「モダンでハイカラ 少年
少女の夢を育む 大正浪漫双六シリーズ」を連載開始予定。

● 築地双六館公式HP: <http://www.sugoroku.net/>

男と女の織り成す大江戸絵双六

発行日 2025年1月15日 初版第1刷発行 非売品
著者 吉田修
発行者 渡邊嘉子
発行元 株式会社ヒューマン・コミュニケーション研究所
〒104-0045
東京都中央区築地2-15-15 セントラル東銀座617
TEL: 03-3545-8038 HPURL: www.opinion-plus.info

2025 Printed in Japan

乱丁・落丁本はお取り替えます。本書の一部または全部を複製（コピー）・複製・転載および電磁的記憶媒体への入力記録は著作権法上での例外を除き、禁じられています。これらの許諾については発行元（ヒューマン・コミュニケーション研究所）までご照会ください。



双おねっど

<https://www.sugoroku.net/>

